

食品健康影響評価等の啓発に関する調査

(食品添加物篇)

～意識調査&ビデオによる啓発効果測定調査～

調査研究報告書

平成 20 年 3 月

株式会社NHKエンタープライズ

目 次

I. 総 括

1. 調査概要	3
2. 調査結果の要約	8
(1) 食品添加物についての、中学生と親の意識	8
(2) 啓発効果について ～ビデオ視聴後の意識の変化～	11
(3) 明らかになった課題	16

II. アンケート集計結果のまとめ

1. 意識調査

Q1. 食品添加物という言葉を知っていますか？	20
Q2. 食品添加物について、自分はどのくらい知っていると思いますか？	21
Q3. 食品添加物のことはどこで知りましたか？	22
Q4. 食品添加物について、あなたの気持ちに近い項目はどれですか？	23
Q5. 食品添加物が使われている食品と使われていない食品が並んでいる場合、どちらを選びますか？	24
Q6. 食品添加物は何種類くらいあると思いますか？	25
Q7. 食品添加物の役割はどれだと思いますか？	26
Q8. 食品添加物を使ってつくられている食べ物はどれだと思いますか？	27
Q9. 食品添加物を使っていない飲み物はどれだと思いますか？	28
Q10. 次の物質のうちどれが食品添加物だと思いますか？	29
Q11. 発がん性が高いと感じるものはどれですか？	30
Q12. 食品添加物は法律でその成分や使用量について厳しく規制されています。下記のうち正しいものはどれですか？	31
Q13. 食品を購入する際、どの表示を見ますか？	32
Q14. 食品を購入する際、表示を見て、食品添加物が使われていることが気になりますか？	33
Q15. 食品添加物が使われている食品を購入する際、心がけていることはありますか？	34
Q16. 食品添加物の安全性は、どの食品において気になりますか？	35

Q17. 食品添加物について、気になることは何ですか？	36
Q18. 食品添加物の安全性を評価している公的機関はどこだと思いますか？	37
Q19. 日本の食品添加物の安全性は、きちんと確保されていると思いますか？	38
Q20. 食品安全委員会を知っていますか？	39

2. 啓発効果測定調査

Q1. ビデオはわかりやすかったですか？	42
Q2. 食品添加物の安全性について理解できましたか？	44
Q3. 物語形式のビデオでしたが、如何でしたか？	46
Q4. 発がん性が高いと感じるものはどれですか？	48
Q5. 次の物質のうちどれが食品添加物だと思いますか？	50
Q6. 現在流通している食品に使われている食品添加物が人間の健康を害するかどうかの一番のポイントは、次のうちどれだと思いますか？	52
Q7. 食品添加物は法律でその成分や使用量について厳しく規制されています。下記のうち正しいものはどれですか？	54
Q8. 食品添加物について、あなたの気持ちに近いのはどれですか？	56
Q9. 食品添加物の安全性について確認している公的機関は次のうちどこだと思いますか？	58
Q10. 食品安全委員会の業務内容は、次のうちどれですか？	60

I . 総括

1. 調査概要

(1) 調査テーマ ≫

食品添加物についてのアンケート ～意識調査&ビデオによる啓発効果測定調査～

(2) 調査目的 ≫

中学生とその親を対象に、食品添加物についての意識調査を行い、食品添加物についての意識の実態を把握する。

さらに、意識調査の結果を踏まえて制作したビデオを視聴してもらい、再度アンケートを実施し、啓発効果を把握する。

(3) 主な調査項目 ≫

<意識調査>

- ◇ 食品添加物についての知識の理解度
- ◇ 食品添加物に対するイメージや意識
- ◇ 食品安全委員会の認知

<ビデオによる啓発効果測定調査>

- ◇ ビデオのわかりやすさ
- ◇ 食品添加物についての知識の理解度
- ◇ 食品添加物に対するイメージや意識
- ◇ 食品安全委員会の業務内容

(4) 調査対象 ≫

全国の、中学生および中学生の親を対象に実施。

ビデオによる啓発効果測定調査は、意識調査の回答者を対象とした。

<意識調査>

中学生	1500 人
中学生の親	1500 人
計	3000 人

<ビデオによる啓発効果測定調査>

中学生	120 人(中 1、中 2、中 3 各 40 人)
中学生の親	120 人(中 1 の親、中 2 の親、中 3 の親 各 40 人)
計	240 人

(5) 調査方法 >

Web アンケート調査

(6) 調査期間 >

平成 19 年 12 月～平成 20 年 3 月

<意識調査>…平成 20 年 1 月上旬実施

↓

意識調査の結果をもとにビデオ制作

↓

<啓発効果測定調査>…平成 20 年 3 月上旬実施

【調査①】食品添加物についてのアンケート 意識調査の構成

質問内容	分類・備考
Q1. 食品添加物という言葉の認知	認知
Q2. 食品添加物について自分はどのくらい知っているか	認知
Q3. 食品添加物という言葉はどこで知ったか	意識・イメージ
Q4. 食品添加物を使ってもよいか	意識・イメージ ※【調査②】Q8と共通
Q5. 食品添加物を使ったもの、使わないもの、どちらを選ぶか	意識・イメージ
Q6. 食品添加物は何種類か	知識の理解
Q7. 食品添加物の役割	知識の理解
Q8. 食品添加物を使っている食べ物	知識の理解
Q9. 食品添加物を使っていない飲み物	知識の理解
Q10. 食品添加物はどれか	知識の理解 ※【調査②】Q5と共通
Q11. 発がん性が高いと感じるもの	意識・イメージ ※【調査②】Q4と共通
Q12. 食品添加物の正しい規制	知識の理解 ※【調査②】Q7と共通
Q13. 食品購入時に見る表示	意識・イメージ
Q14. 食品購入時に食品添加物が気になるか	意識・イメージ
Q15. 食品購入時に心がけていること	意識・イメージ
Q16. 食品添加物の安全性が気になる食品	意識・イメージ
Q17. 食品添加物について気になること	意識・イメージ
Q18. 食品添加物の安全性評価をする公的機関	知識の理解 ※【調査②】Q9と共通
Q19. 食品添加物の安全性は確保されていると思うか	イメージ
Q20. 食品安全委員会の認知	認知

【調査②】食品添加物についてのビデオアンケート 啓発効果測定調査の構成

質問内容	分類・備考
Q1. ビデオはわかりやすかったか	ビデオのわかりやすさ
Q2. 食品添加物の安全性について理解できたか	ビデオのわかりやすさ
Q3. 物語形式はわかりやすかったか	ビデオのわかりやすさ
Q4. 発がん性が高いと感じるもの	意識・イメージ 【調査①】Q11と共通
Q5. 食品添加物は何種類か	知識の理解 ※【調査①】Q10と共通
Q6. 食品添加物が人間の健康を害するかどうかの一番のポイント	知識の理解
Q7. 食品添加物の正しい規制	知識の理解 ※【調査①】Q12と共通
Q8. 食品添加物を使ってもよいか	意識・イメージ ※【調査①】Q4と共通
Q9. 食品添加物の安全性について確認している公的機関	知識の理解 ※【調査①】Q18と共通
Q10. 食品安全委員会の業務内容	知識の理解

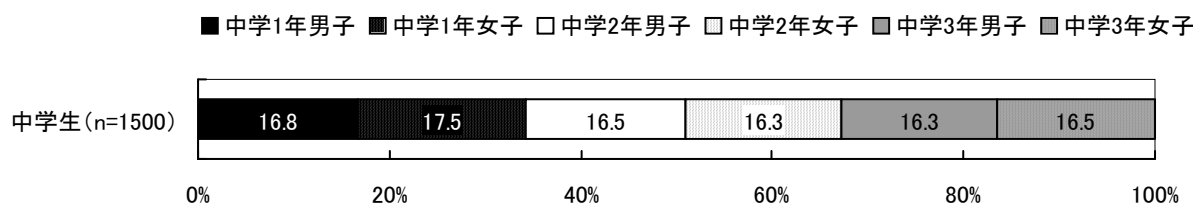
サンプルの特徴

以下は、対象となった中学生、中学生の親の、基本属性である。

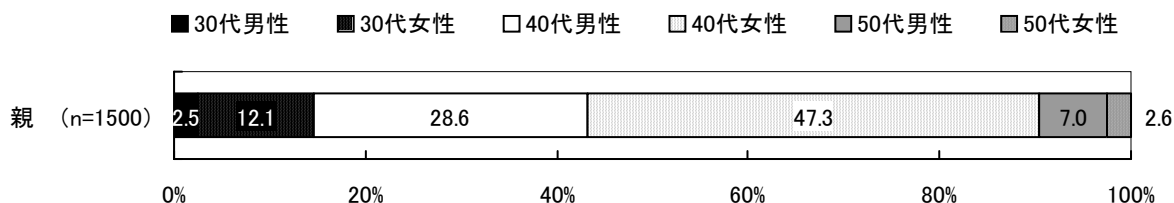
<意識調査>は、中学生 1500 人、親 1500 人、計 3000 人を対象とした。

<意識調査>

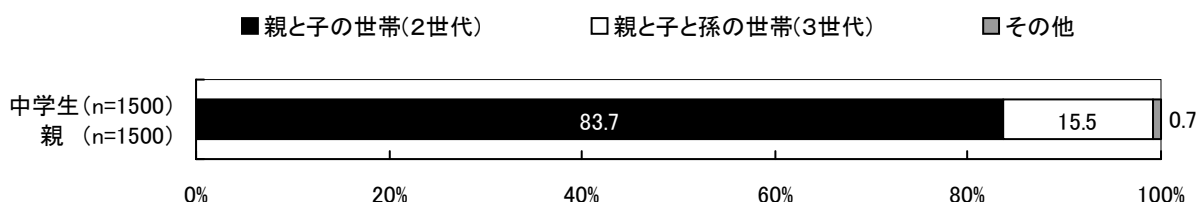
【学年・性別】



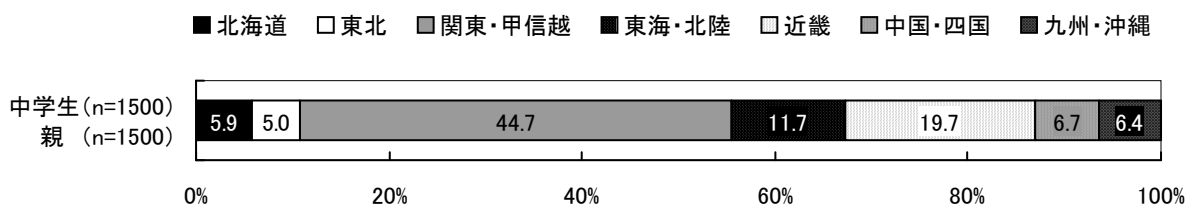
【年代・性別】



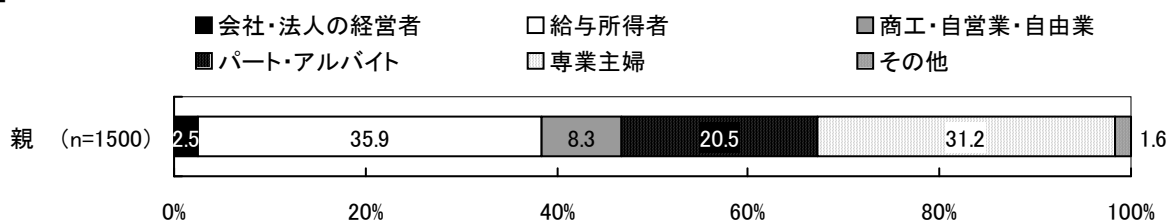
【家族構成】



【居住地域】



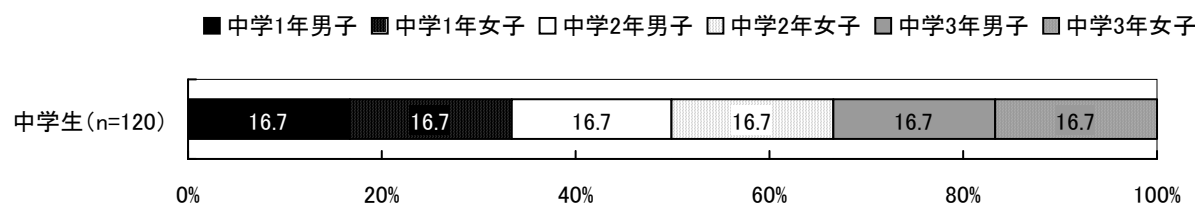
【職業】



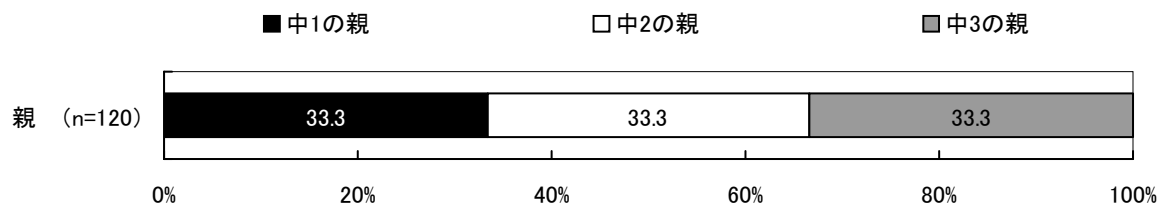
<啓発効果測定調査>は、<意識調査>の回答者を対象に実施し、中学生 120 人、その親 120 人から有効回答を得た。なお、中学生については、学年・性別を、親については、子どもの学年を均等のサンプル数とした。

<啓発効果測定調査>

【学年・性別】



【子供の学年】



2. 調査結果の要約

(1) 食品添加物についての、中学生と親の意識

今回の調査では、第1ステップとして、中学生 1500 人、その親 1500 人の計 3000 人を対象に意識調査を実施した。食品添加物についての知識の浸透度・理解度について、特徴的な点は以下のとおりである。

中学生の 7 割は「食品添加物という名前は聞いたことはあるがよく知らない」

すべての親が言葉は認知しているが、7 割は「食品添加物についてまあまあ知っている」程度

◇ 食品添加物という言葉について、「よく知っている」	中学生 23.1%、親 71.1%
◇ 「名前は聞いたことがあるがよく知らない」	中学生 72.2%、親 28.9%
◇ 「全く知らない」	中学生 4.7%、親 0.0%
◇ 食品添加物について自分は「よく知っている」	中学生 2.1%、親 7.6%
◇ 「まあまあ知っている」	中学生 30.8%、親 70.1%
◇ 「ほとんど知らない」	中学生 59.2%、親 22.1%
◇ 「何も知らない」	中学生 7.91%、親 0.3%

親の情報入手ルートは「テレビ」「新聞や雑誌」などマスコミが圧倒的

中学生は「学校」6 割、「家庭」も重要な情報入手ルート

◇ 親の情報入手ルートは、「テレビ」80.6%、「新聞や雑誌」79.9%
◇ 中学生の情報入手ルートは、「学校」64.2%、「テレビ」45.9%、「家庭」40.7%
「家庭」、すなわち親からの情報入手となり、そのソースは、「テレビ」「新聞や雑誌」となるため、中学生に対してもマスコミの影響は大きい

食品添加物は「できるだけ使わないでほしい」という意識が強く

食品添加物を「使われていない食品」を選びたい

◇ 食品添加物は「できるだけ使わないでほしい」	中学生 57.5%、親 76.4%
◇ 「必要であれば使ってもよい」	中学生 5.1%、親 11.8%
◇ 「使われていない食品」を選びたい	中学生 55.3%、親 77.1%

中学生 3 割、親 5 割強が「食品添加物は約 800 種類」と認識

食品添加物の機能や有用性は、知識としてある程度理解されてはいる

◇ 「約 800 種類」と正しく認識	中学生 30.1%、親 53.1%
◇ 「品質の劣化防止」	中学生 77.7%、親 96.3%
◇ 「色や香りをつける」	中学生 77.9%、親 92.2%
◇ 「製造や加工を助ける」	中学生 40.3%、親 74.3%

**「カップラーメン」は食品添加物を使っている食べ物として強烈なイメージがある
食品添加物を使って作られる食べ物の理解度は、親と子の知識量の差を反映**

- ◇ 「カップラーメン」 中学生 89.9%、親 95.4%
- ◇ 「かまぼこ」 中学生 58.1%、親 88.7%
- ◇ 「アイスクリーム」 中学生 45.8%、親 75.4%
- ◇ 「豆腐」 中学生 23.0%、親 55.2%
- ◇ いずれも中学生よりも親の回答比率が高く、中学生と親との知識量の差を反映

中学生の7割は「牛乳は食品添加物を使っていない飲み物」として、親を上回り、正しく理解

- ◇ 「牛乳は食品添加物を使っていない飲み物」中学生 69.5%、親 57.3%
- ◇ 食品添加物を使っていない飲み物として誤解
 - 「缶入りお茶」 中学生 28.1%、親 16.5%
 - 「スポーツ飲料」 中学生 9.5%、親 6.7%
 - 「炭酸飲料」 中学生 6.2%、親 5.1%

ほぼ全ての親が食品購入の際に表示を確認。表示への注目度大

「期限表示」は最も注目度が高く、親では9割弱、中学生で5割強が注目

- ◇ 「期限表示」 中学生 54.3%、親 88.1%
- ◇ 「原産地表示」 中学生 23.2%、親 72.7%
- ◇ 「原材料名」 中学生 17.6%、親 61.5%
- ◇ 「特に表示は確認しない」中学生 37.7%、親 4.6%

約8割の親は、「食品を購入する際、表示を見て食品添加物が使われていることが気になる」

約7割の親は、食品添加物が使われている食品を購入する際、何らかのことを心がけている

- ◇ 中学生は4割弱 「とても気になる」4.3%+「少し気になる」33.4%
- ◇ 親は8割近く 「とても気になる」21.2%+「少し気になる」55.1%
- ◇ 食品添加物が使われている食品を購入する際、
 - 「特に心がけていることはない」 中学生 71.1%、親 27.6%
 - 「数多く使われているものを避ける」中学生 16.0%、親 48.9%
 - 「使われている食品添加物を確認」中学生 10.7%、親 39.0%
 - 「特定の食品添加物を避ける」 中学生 7.0%、親 19.3%
 - 「特定の用途のものを避ける」 中学生 6.2%、親 18.8%

親の 8 割は、「輸入食品」に対して食品添加物の安全性が気になると回答
親は、あらゆる食品に対して食品添加物の安全性を子どもよりも強く意識している

- ◇ 中学生が、食品添加物の安全性を気にする食品
「お菓子や清涼飲料」41.6%、「輸入食品」38.0%、「コンビニの弁当」25.6%
- ◇ 親が、食品添加物の安全性を気にする食品
「輸入食品」80.3%、「お菓子や清涼飲料」60.0%、「コンビニの弁当」51.2%、
「スーパーの惣菜」48.1%
- ◇ 「特に気にならない」中学生 31.7%、親 7.3%

中学生、親とも食品添加物について気になるのは「健康への影響」

- ◇ 「健康への影響」 中学生 85.0%、親 90.3%
- ◇ 「どのくらいの量を実際に摂取しているか」 中学生 22.2%、親 44.2%
- ◇ 「どのくらいの種類が使われているか」 中学生 13.3%、親 25.3%

9 割以上が食品添加物の安全性の確保について漠然とした不安を抱いている

- ◇ 「不安である」 全体 28.5%、中学生 21.3%、親 35.8%
- ◇ 「多少不安もある」 全体 63.9%、中学生 66.8%、親 60.9%

中学生の 8 割近く、親の半数近くが、食品安全委員会を「知らない」

- ◇ 食品安全委員会を「知っている」 全体 3.7%、中学生 1.8%、親 5.7%
- ◇ 「聞いたことはあるがよく知らない」 全体 34.4%、中学生 20.9%、親 47.9%
- ◇ 「知らない」 全体 61.9%、中学生 77.3%、親 46.4%

(2) 啓発効果について ～ビデオ視聴後の意識の変化～

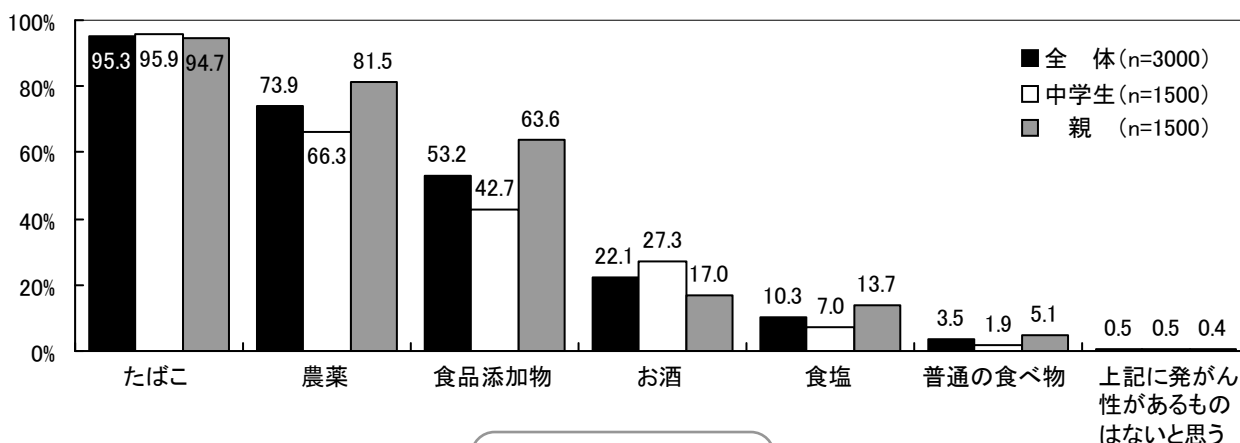
第2ステップでは、ビデオを使った啓発効果測定調査を実施した。第1ステップとして実施した意識調査(中学生と親 計3000人を対象)の結果を踏まえて制作したビデオ(「気になる食品添加物」27分)を、第1ステップ調査の回答者に視聴してもらい、中学生120人、その親120人、計240人の有効回答を集計した。ビデオ視聴後の質問の中には、意識調査と同様の質問も5つ含まれている。ビデオ視聴後の意識や知識の浸透度の変化として、特徴的な点は以下のとおりである。

ビデオによる表現手法はわかりやすく内容を伝えていると評価されている

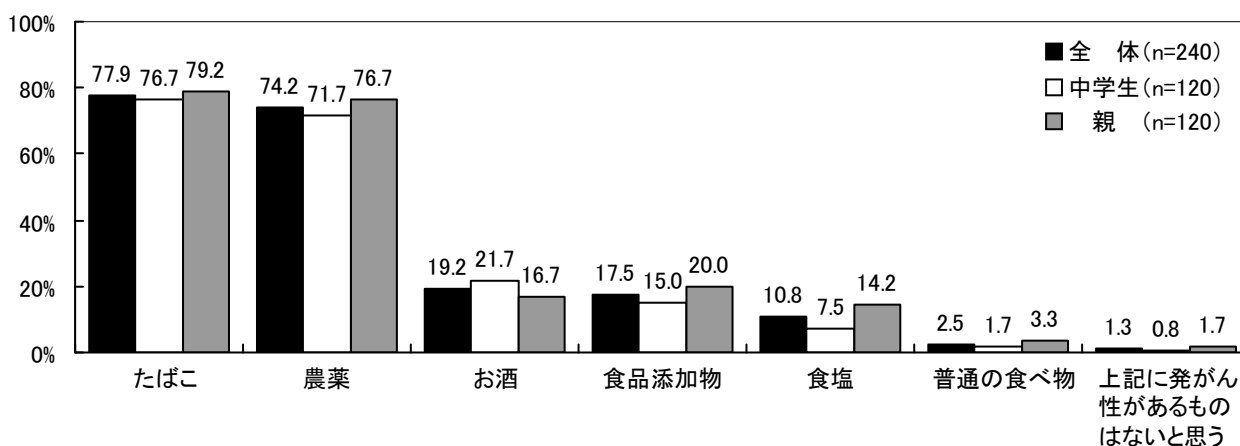
- ◇ 「ビデオはわかりやすかった」 中学生 93.4%、親 96.7%
- ◇ 「食品添加物の安全性について理解できた」中学生 90.8%、親 91.7%
- ◇ 「物語形式はわかりやすかった」 中学生 93.3%、親 96.7%

53.2%が発がん性が高いとしていた「食品添加物」はビデオ視聴後に17.5%に減少 「たばこ」と「農薬」は、依然として発がん性が高いと感じる上位項目

- ◇ 「食品添加物」 全体 53.2%→17.5%、中学生 42.7%→15.0%、親 63.6%→20.0%
- ◇ 「たばこ」 全体 95.3%→77.9%、中学生 95.9%→76.7%、親 94.7%→79.2%
- ◇ 「農薬」 全体 73.9%→74.2%、中学生 66.3%→71.7%、親 81.5%→76.7%
- ◇ 普通の食べ物 全体 3.5%→2.5%、中学生 1.9%→1.7%、親 5.1%→3.3%

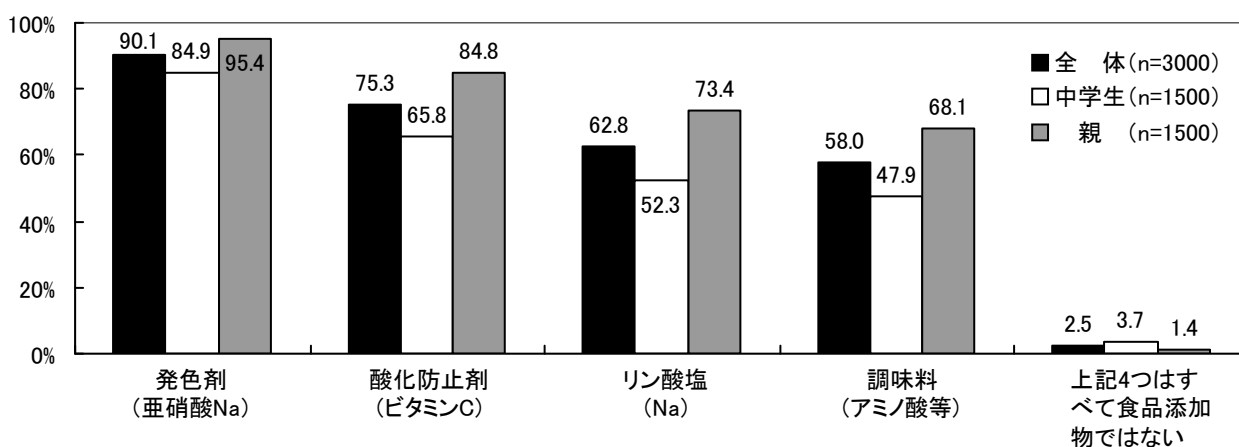


ビデオ視聴後

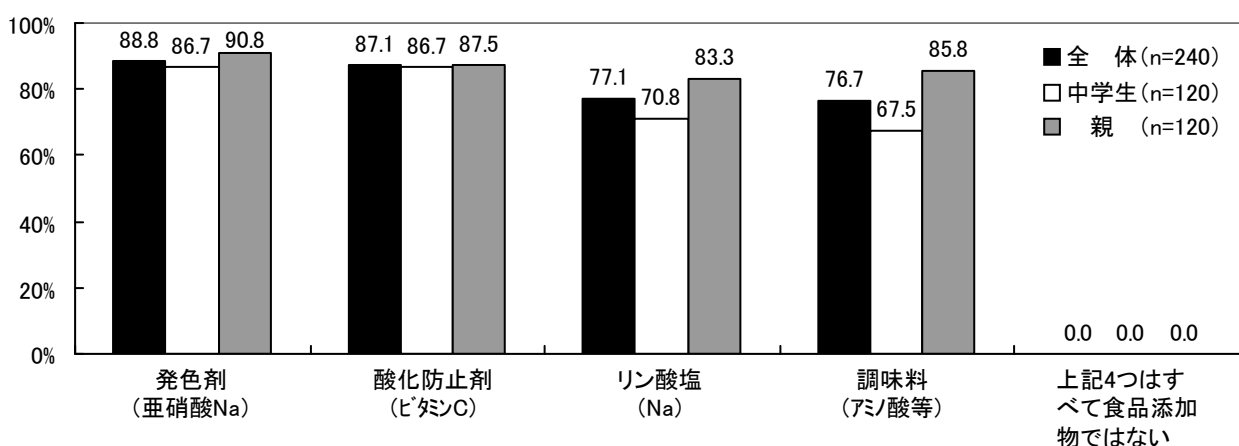


ビデオ視聴後、「酸化防止剤(ビタミン C)」、「リン酸塩(Na)」、「調味料(アミノ酸等)」の食品添加物としての認識は高まった

- ◇ 「発色剤(亜硝酸 Na)」
全体 90.1%→88.8%、中学生 84.9%→86.7%、親 95.4%→90.8%
- ◇ 「酸化防止剤(ビタミン C)」
全体 75.3%→87.1%、中学生 65.8%→86.7%、親 84.8%→87.5%
- ◇ 「リン酸塩(Na)」
全体 62.8%→77.1%、中学生 52.3%→70.8%、親 73.4%→83.3%
- ◇ 「調味料(アミノ酸等)」
全体 58.0%→76.7%、中学生 47.9%→67.5%、親 68.1%→85.8%



ビデオ視聴後

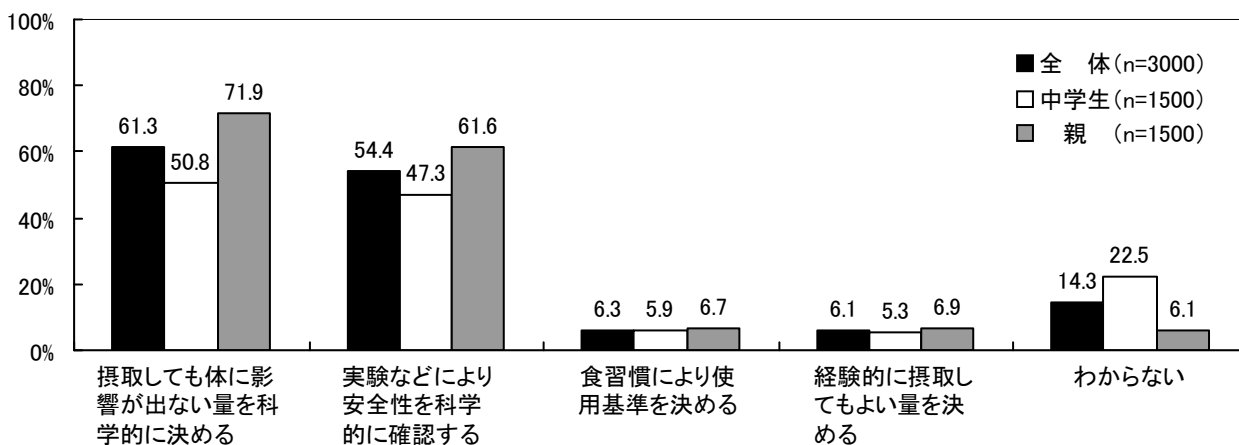


食品添加物が人間の健康を害するかどうかの一番のポイントが「食品添加物の摂取量」であると正しく認識できたのは6割程度

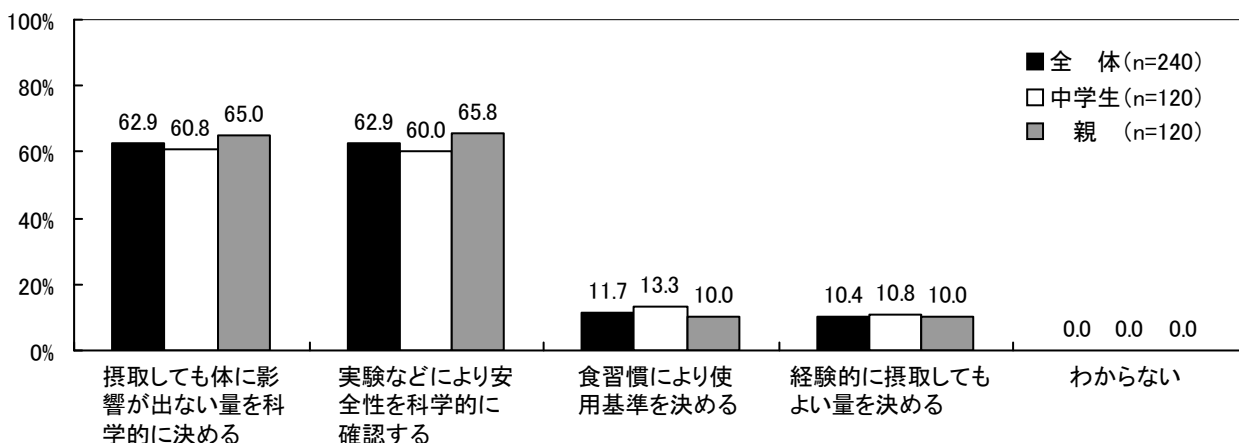
- ◇ 「食品添加物の摂取量」
全体 62.6%、中学生 60.9%、親 64.2%
- ◇ 「摂取量・摂取時期・摂取した種類のすべて」との回答も2割弱
全体 18.3%、中学生 17.5%、親 19.2%

「体に影響が出ない量を科学的に決める」「実験などにより安全性を科学的に確認する」ことが食品添加物の規制であることについては、中学生において明らかな啓発効果が認められた

- ◇ 「体に影響が出ない量を科学的に決める」
全体 61.3%→62.9%、中学生 50.8%→60.8%、親 71.9%→65.0% (マイナス)
- ◇ 「実験などにより安全性を科学的に確認する」
全体 54.4%→62.9%、中学生 47.3%→60.0%、親 61.6%→65.8%
- ◇ 「わからない」 全体 14.3%→ゼロに

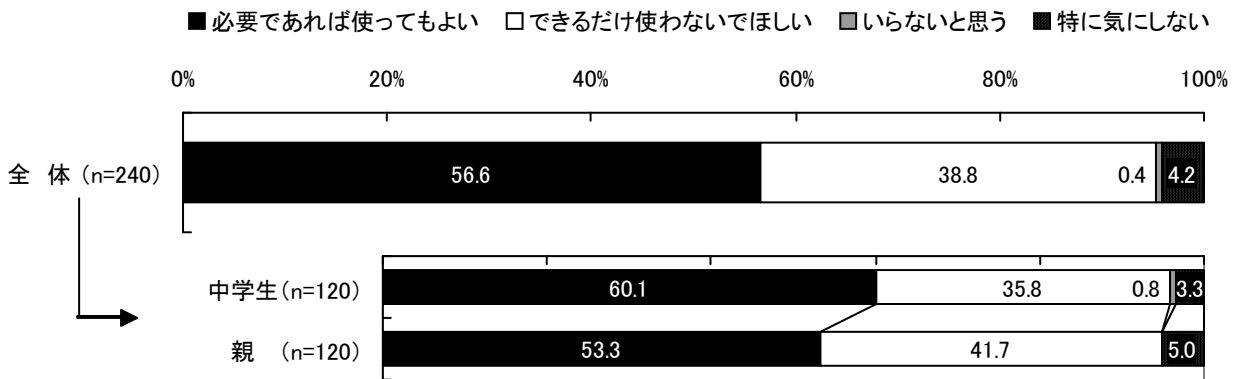
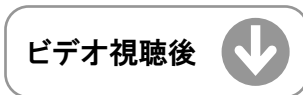
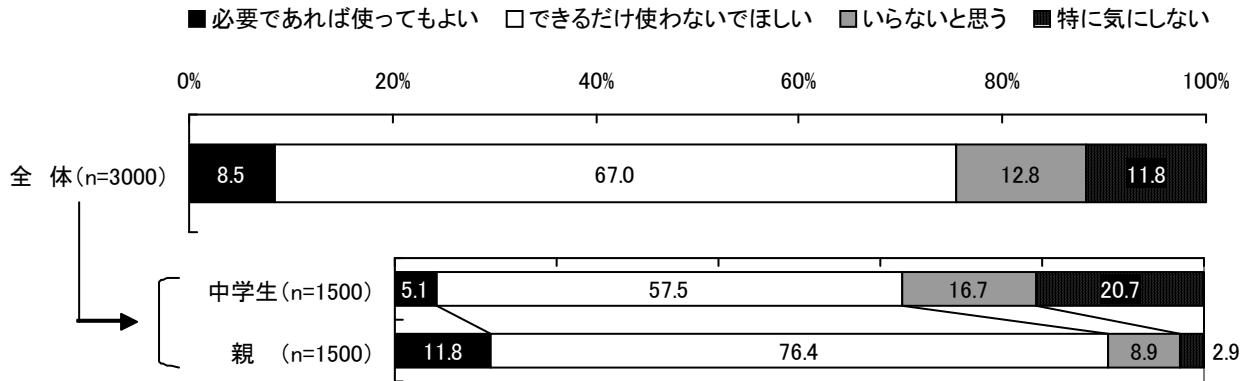


ビデオ視聴後



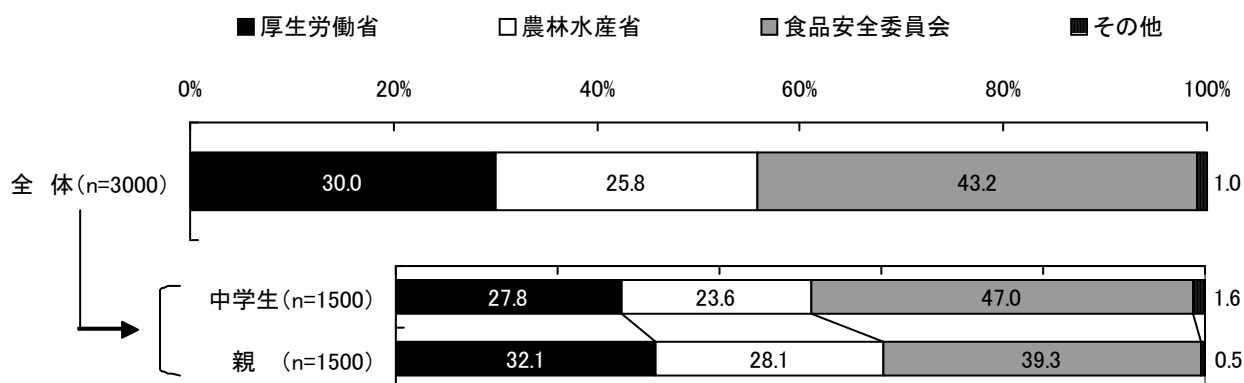
**「食品添加物は必要であれば使ってもよい」が全体で 8.5%から 56.6%と大幅アップ。
 とはいえ、特に親においては、ビデオ視聴後も「できるだけ使わないでほしい」が4割**

- ◇ 「必要であれば使ってもよい」
 全体 8.5%→56.6%、中学生 5.1%→60.1%、親 11.8%→53.3%
- ◇ 「できるだけ使わないでほしい」
 全体 67.0%→38.8%、中学生 57.5%→35.8%、親 76.4%→41.7%

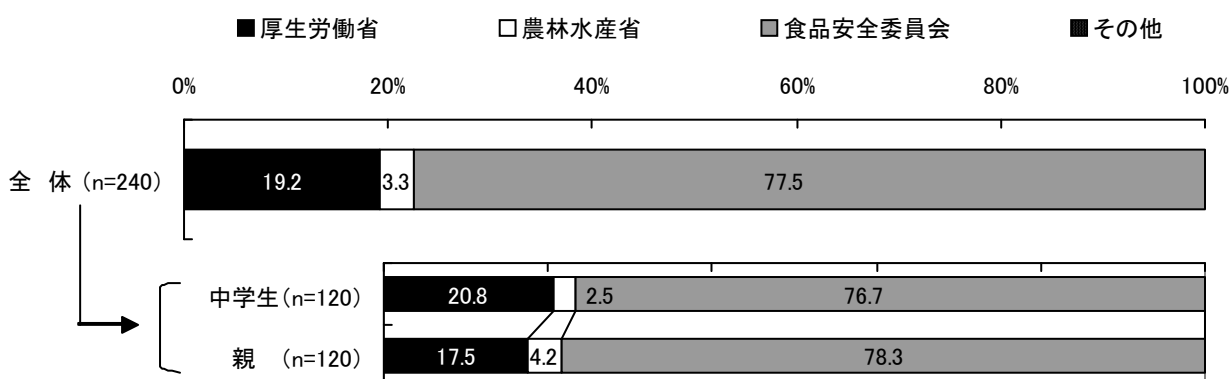


食品添加物の安全性を評価している公的機関としての「食品安全委員会」の認知は、全体で 43.2%から 77.5%と大幅アップ

◇ 「食品安全委員会」 全体 43.2%→77.5%、中学生 47.0%→76.7%、親 39.3%→78.3%



ビデオ視聴後



食品安全委員会の業務内容が「リスク評価を行う機関」との認識は全体の 56.7%

◇ 「リスク評価を行う機関」 全体 56.7%、中学生 54.2%、親 59.2%

(3) 明らかになった課題

食品添加物についての意識調査では、食品添加物についての基礎的知識が、十分浸透していない事実が明らかになった。

食品添加物については、中学生・親ともおよそ9割が「健康への影響」を気にしている。すなわち、健康に害を与える悪いもの、として不安感や不信感を根強く持っていることがわかる。しかし、これは科学的な視点からではなく、漠然とした心理的なものである。

「食品添加物は必要であれば使ってもよい」がビデオ視聴前は8.5%だったのに対し、ビデオ視聴後は56.6%と大幅にアップし、啓発効果は顕著となった。一方で、ビデオ視聴後も、4割は「できるだけ使わないでほしい」としている。その価値や有用性は認めるものの、積極的に使いたくはないもの、という位置づけとなっているのが消費者にとっての食品添加物である。

概ね、中学生の親は、あらゆる食品に対して食品添加物の安全性を子どもよりも強く意識し正しく理解している。子どもに比べれば、経験と知識量から当然の結果ではあるが、留意すべきは親の情報入手ルートは、「テレビ」「新聞や雑誌」といったマスコミが圧倒的であるという点である。子どもである中学生の情報ルートは、「学校」が6割強、「テレビ」が5割弱、そして「家庭」が4割となっている。「家庭」とは、すなわち親からの情報入手となり、そのソースが「テレビ」「新聞や雑誌」であるため、中学生は、直接的にも間接的にもマスコミから多大な影響を受けることになる。

今回の、ビデオによる啓発は、いわば消費者が頼るテレビや新聞とは異なるものであり、正しい啓発の重要性が認識されたといえよう。ビデオによる啓発効果が、極めて顕著に表れたのは、前述の「食品添加物は必要であれば使ってもよい」が8.5%からビデオ視聴後に56.6%と大幅にアップしたことである。また、53.2%が発がん性が高いとしていた「食品添加物」は、ビデオ視聴後に17.5%にまで大幅に減少した点も見逃せない。

食品添加物の規制について、中学生のビデオ視聴前、視聴後の変化をみると、「体に影響が出ない量を科学的に決める」と正しく認識できたのは50.8%から60.8%に、同様に「実験などにより安全性を科学的に確認する」と正しく認識できたのは、47.3%から60.0%にというように、ビデオ視聴によって理解度は確実にアップした。一方、親においては、「体に影響が出ない量を科学的に決める」ことについて、71.9%から65.0%と若干のマイナスとなり、明確な理解には至っていない様子がうかがえる。このような規制や食品の安全性の確保のシステムを消費者に正しく伝え、理解を促すには、さらなる工夫が必要といえよう。

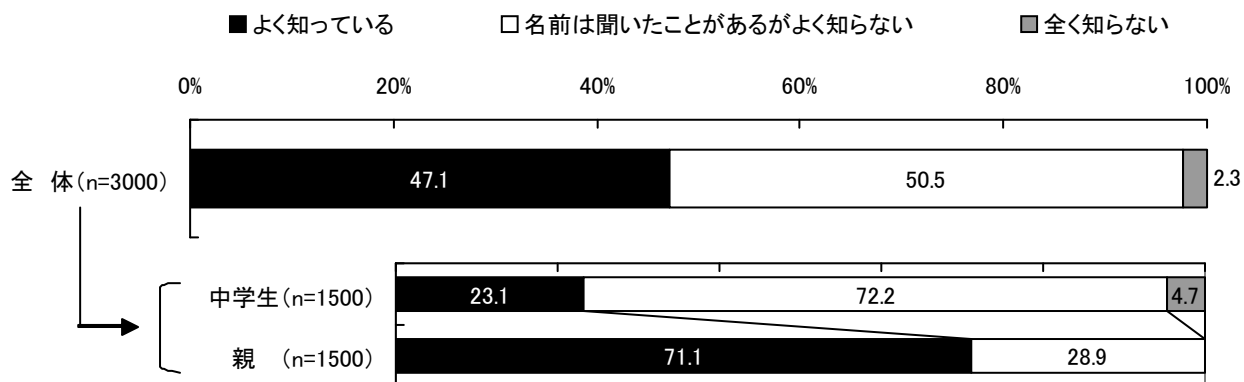
「食品安全委員会」の認知度は中学生の8割、親の半数が、「知らない」と明言しており、認知はきわめて低いといわざるを得ない。食品添加物の安全性を評価している公的機関としての「食品安全委員会」の認知は、ビデオ視聴前の43.2%から、ビデオ視聴後には77.5%と大幅にアップした。しかし、ビデオ視聴後も、2割強の人は正しく理解できなかったというのも事実である。

食品安全にかかわる啓発においては、例えば食品添加物であればそのリスクだけでなく、ベネフィットを伝える必要がある。また、単に「食品安全委員会」の名称を知らせていくのではなく、食品安全にかかわる公的機関とそれぞれの役割や連携なども含め、総合的に安全性の確保の仕組みを伝えていくことが重要である。そして、子どものころから、農業や食料のことを学ぶことが大切である。食品安全にかかわる啓発においても、「食育」の学習は積極的に実施されるべきであるといえよう。

Ⅱ. アンケート集計結果のまとめ

1. 意識調査

Q1. 食品添加物という言葉を知っていますか？



食品添加物という言葉について、「よく知っている」は、全体では47.1%であるが、中学生では23.1%、親では71.1%とその差は大きい。

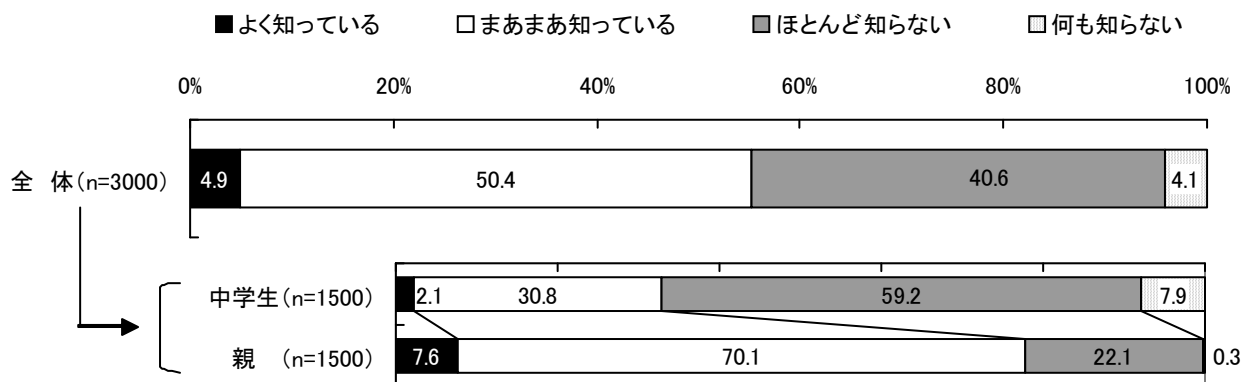
中学生においては、「名前は聞いた事があるがよく知らない」が72.2%を占め、4.7%が「全く知らない」と回答している。

親においては、「全く知らない」という回答はないが「名前を聞いたことはあるがよく知らない」28.9%となっている。

【食品添加物という言葉を知っていますか？】

	よく知っている	名前は聞いたことがあるがよく知らない	全く知らない
全体 (n=3000)	47.1	50.5	2.3
中学生 (n=1500)	23.1	72.2	4.7
親 (n=1500)	71.1	28.9	0.0

Q2. 食品添加物について、自分はどのくらい知っていると思いますか？

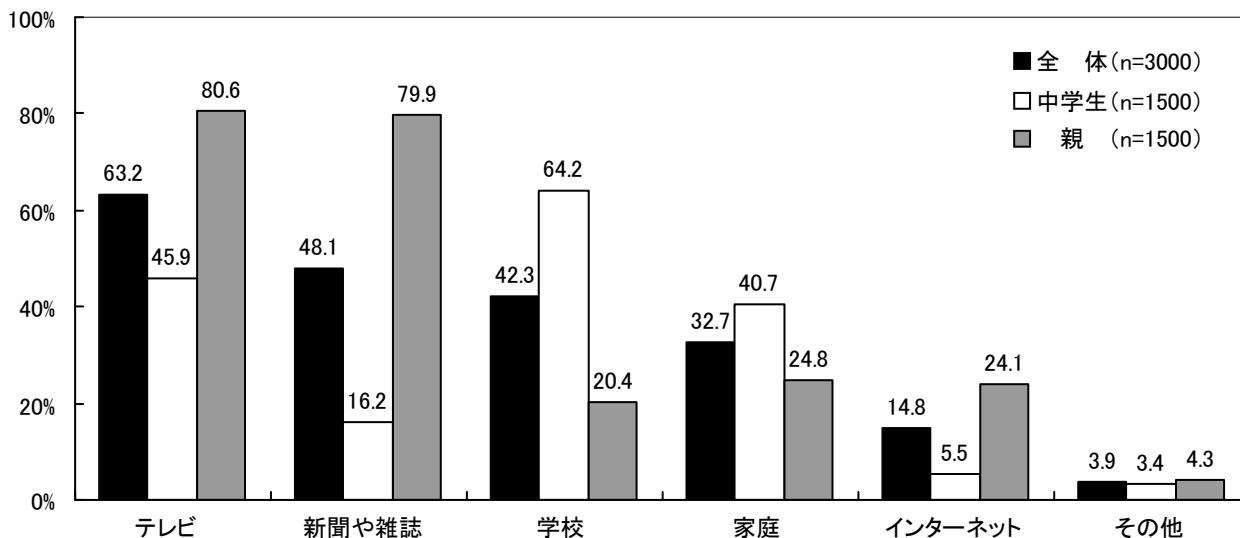


食品添加物についての自分自身の認識度合いについて、「よく知っている」との回答は全体では 4.9%、中学生では 2.1%、親では 7.6%とわずかである。
 「まあまあ知っている」が全体では 50.4%であるが、中学生では 30.8%、親では 70.1%と差が大きい。
 「よく知っている」「まあまあ知っている」を合わせてみると、中学生においては約 3 割、親においては 8 割弱が「食品添加物について自分は知っている」と認識している。

【食品添加物について、自分はどのくらい知っていると思いますか？】

	よく知っている	まあまあ知っている	ほとんど知らない	何も知らない
全体 (n=3000)	4.9	50.4	40.6	4.1
中学生 (n=1500)	2.1	30.8	59.2	7.9
親 (n=1500)	7.6	70.1	22.1	0.3

Q3. 食品添加物のことはどこで知りましたか？



食品添加物に関する知識の認知経路については、全体では「テレビ」63.2%、「新聞や雑誌」48.1%、「学校」42.3%、「家庭」32.7%、「インターネット」14.8%となっている。

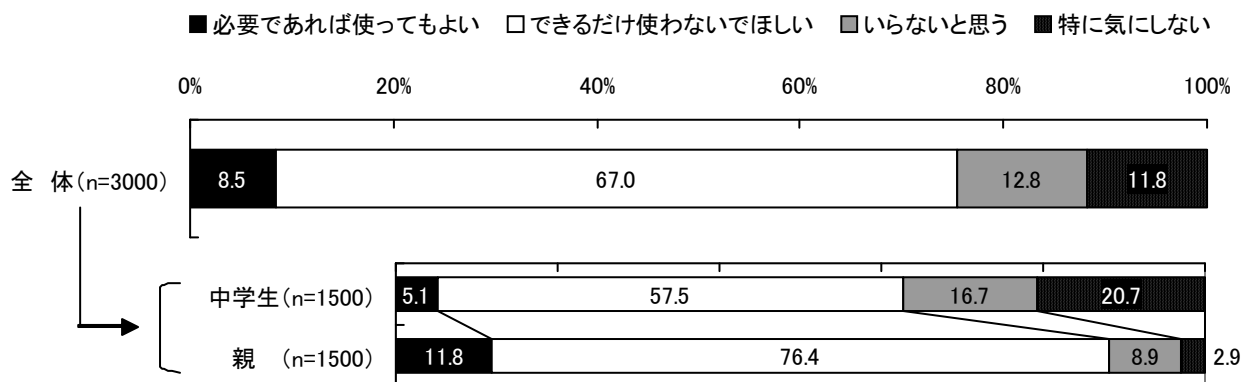
ただし、中学生では、「学校」が 64.2%と最も多く、次に「テレビ」45.9%、「家庭」40.7%と続き、学校や家庭の占める割合が大きいことがわかる。

一方、親については「テレビ」80.6%、「新聞や雑誌」79.9%とマスコミによる認知が圧倒的であり、「家庭」は 24.8%、「学校」は 20.4%にとどまっている。

【食品添加物のことはどこで知りましたか？】

	テレビ	新聞や雑誌	学校	家庭	インターネット	その他
全体 (n=3000)	63.2	48.1	42.3	32.7	14.8	3.9
中学生 (n=1500)	45.9	16.2	64.2	40.7	5.5	3.4
親 (n=1500)	80.6	79.9	20.4	24.8	24.1	4.3

Q4. 食品添加物について、あなたの気持ちに近い項目はどれですか？



食品添加物については「できるだけ使わないでほしい」が全体では 67.0%と最も多い。中学生では 57.5%、親では 76.4%が該当する。

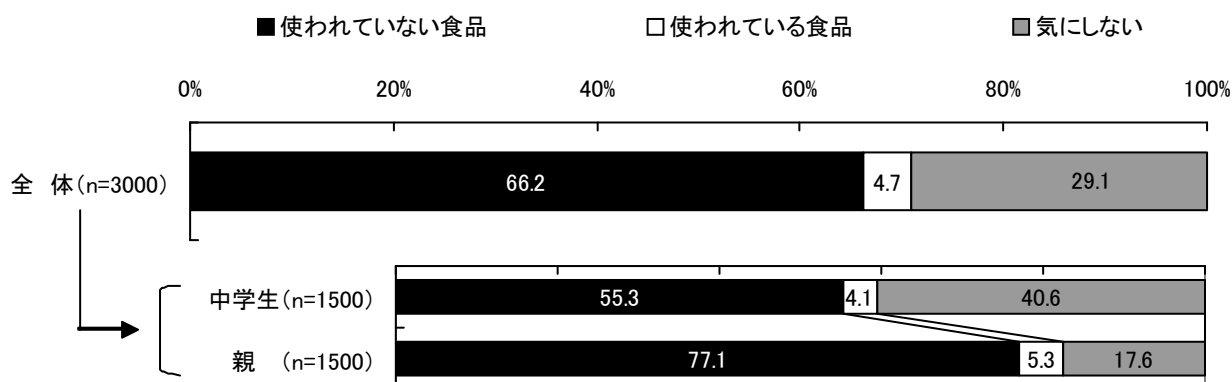
一方、「必要であれば使ってもよい」とするのは全体の 8.5%と極めて少ない。中学生では 5.1%、親では 11.8%となっている。

また、全体で「いらなと思う」は 12.8%、「特に気にしない」は 11.8%となっている。

【食品添加物について、あなたの気持ちに近い項目はどれですか？】

	必要であれば使ってもよい	できるだけ使わないでほしい	いらなと思う	特に気にしない
全体 (n=3000)	8.5	67.0	12.8	11.8
中学生 (n=1500)	5.1	57.5	16.7	20.7
親 (n=1500)	11.8	76.4	8.9	2.9

Q5. 食品添加物が使われている食品と使われていない食品が並んでいる場合、どちらを選びますか？



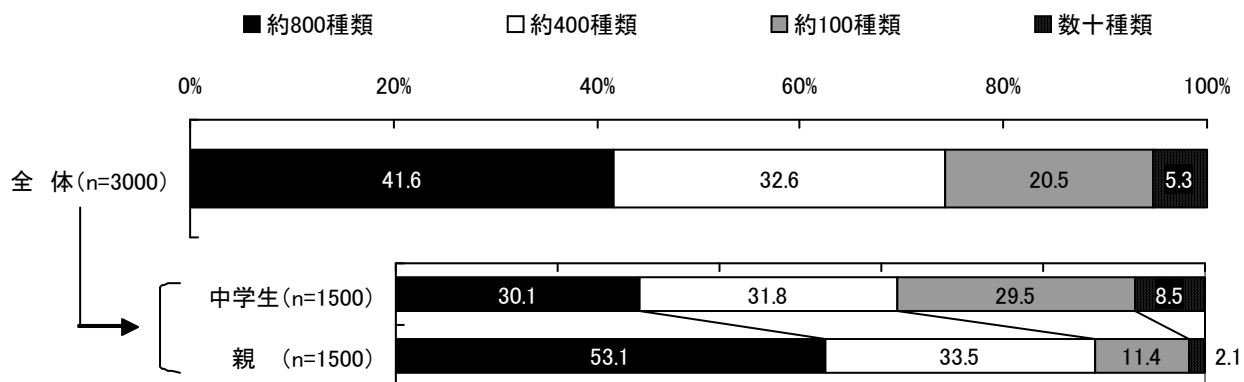
食品添加物が使われている食品と使われていない食品の選択では、「使われていない食品」を選ぶとの回答が全体の66.2%で最も多く、中学生では55.3%、親では77.1%と特に親においてその傾向が強く現れている。

「気にしない」は全体では29.1%であるが、中学生では40.6%となっている。

【食品添加物が使われている食品と使われていない食品が並んでいる場合、どちらを選びますか？】

	使われていない食品	使われている食品	気にしない
全 体 (n=3000)	66.2	4.7	29.1
中学生 (n=1500)	55.3	4.1	40.6
親 (n=1500)	77.1	5.3	17.6

Q6. 食品添加物は何種類くらいあると思いますか？

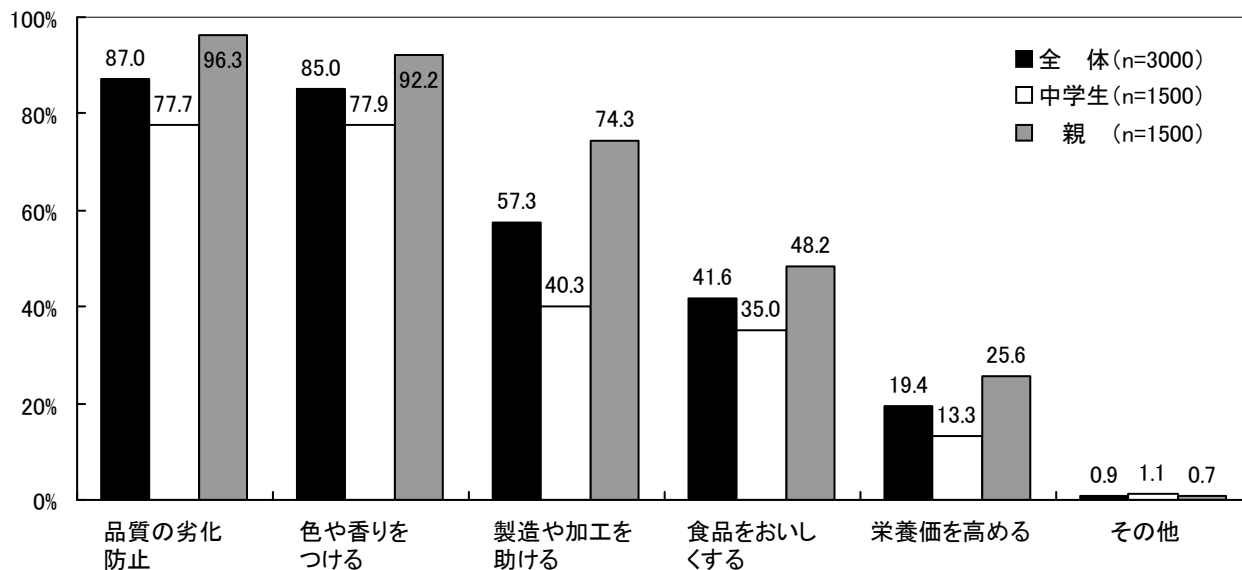


食品添加物の種類を「約800種類」と正しく認識できたのは、全体の41.6%であった。中学生では30.1%、親では53.1%というように、親の約半数は正しく理解している。

【食品添加物は何種類くらいあると思いますか？】

	約 800 種類	約 400 種類	約 100 種類	数十種類
全 体 (n=3000)	41.6	32.6	20.5	5.3
中学生 (n=1500)	30.1	31.8	29.5	8.5
親 (n=1500)	53.1	33.5	11.4	2.1

Q7. 食品添加物の役割はどれだと思いますか？



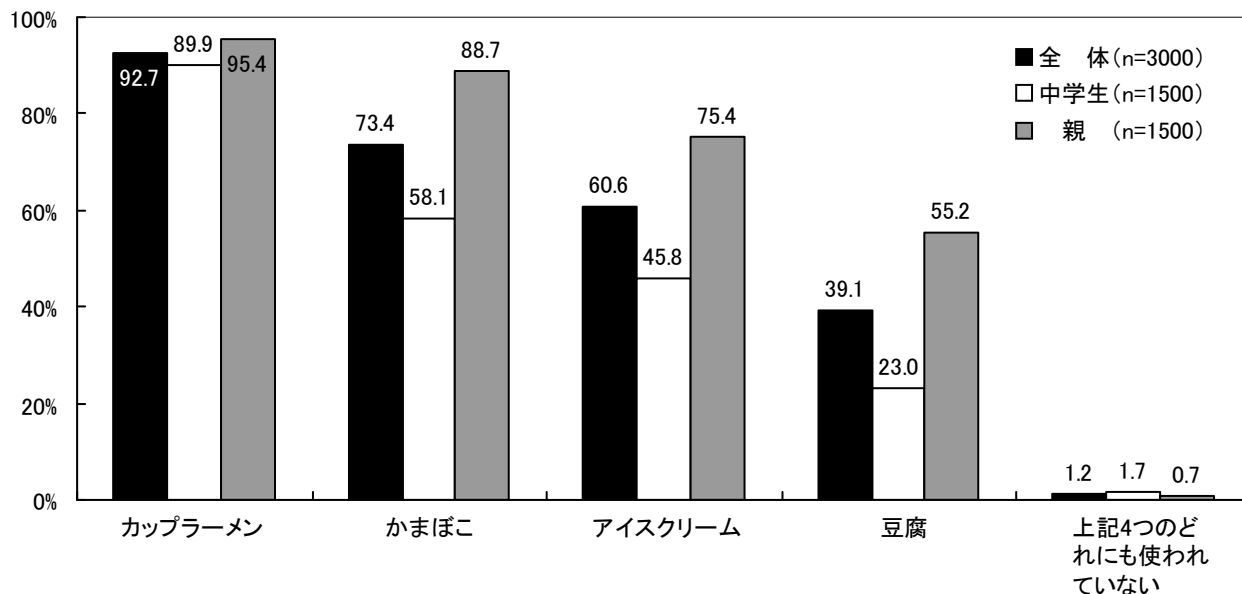
食品添加物の役割については、全体では「食品の劣化防止」87.0%、「色や香りをつける」85.0%、「製造や加工を助ける」57.3%、「食品をおいしくする」41.6%、「栄養価を高める」19.4%という結果になった。劣化防止や加工の有効性の認識については高く、おいしさや栄養価を高めるといった有効性についての認識は比較的低い。

なお、いずれの選択肢についても、中学生よりも親の回答比率は高く、食品添加物の役割についての認識は子どもよりも高いといえる。

【食品添加物の役割はどれだと思いますか？】

	品質の劣化防止	色や香りをつける	製造や加工を助ける	食品をおいしくする	栄養価を高める	その他
全体 (n=3000)	87.0	85.0	57.3	41.6	19.4	0.9
中学生 (n=1500)	77.7	77.9	40.3	35.0	13.3	1.1
親 (n=1500)	96.3	92.2	74.3	48.2	25.6	0.7

Q8. 食品添加物を使ってつくられている食べ物はどれだと思いますか？



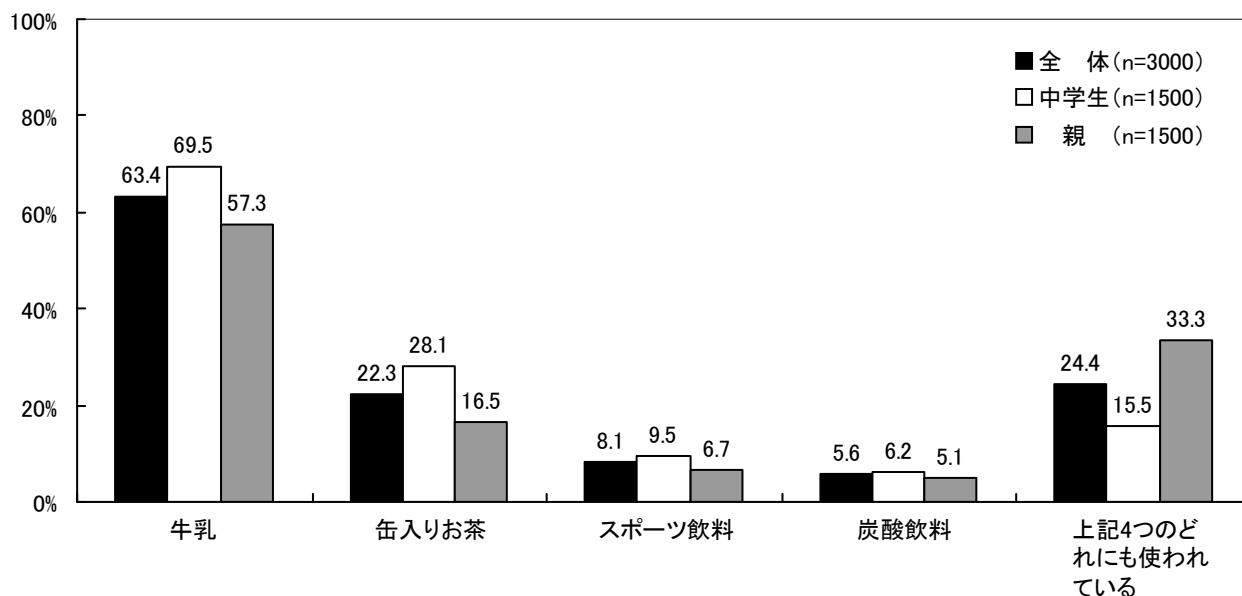
食品添加物を使っている食べ物として、提示した4品目では「カップラーメン」を選択したのは、全体で92.7%、中学生で89.9%、親で95.4%と圧倒的であり、「カップラーメン」が食品添加物を使っている食べ物として最も強く意識されていることがわかる。

2番目以下は、全体では「かまぼこ」73.4%、「アイスクリーム」60.6%、「豆腐」39.1%という認識になっている。なお、親においては、それぞれ「かまぼこ」88.7%、「アイスクリーム」75.4%、「豆腐」55.2%と回答しており、いずれも中学生よりも親の回答比率が高く、中学生と親との知識の差が大きく表れている。

【食品添加物を使ってつくられている食べ物はどれだと思いますか？】

	カップラーメン	かまぼこ	アイスクリーム	豆腐	上記4つのどれにも使われていない
全体 (n=3000)	92.7	73.4	60.6	39.1	1.2
中学生 (n=1500)	89.9	58.1	45.8	23.0	1.7
親 (n=1500)	95.4	88.7	75.4	55.2	0.7

Q9. 食品添加物を使っていない飲み物はどれだと思いますか？



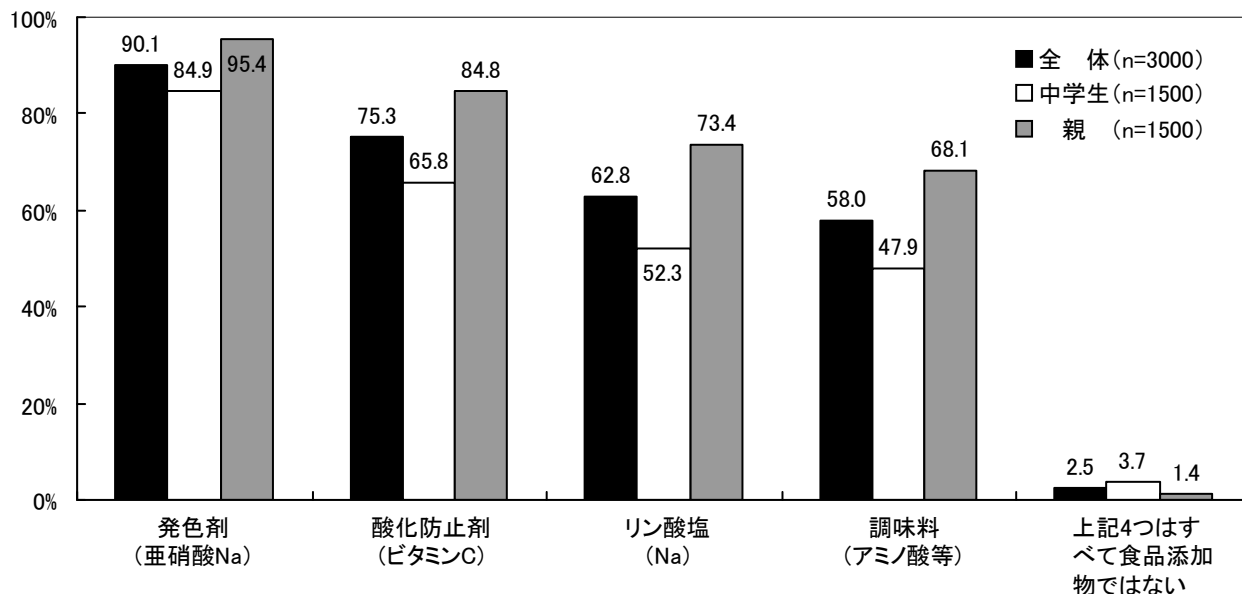
食品添加物を使っていない飲み物として「牛乳」と正しく認識しているのは、全体の63.4%、中学生では69.5%、親では57.3%となっており、中学生の理解のほうが上回っていた。食品添加物を使用しているにも関わらず、使ってない飲み物として誤った認識をしている比率は、「缶入りお茶」で22.3%、「スポーツ飲料」8.1%、「炭酸飲料」5.6%となっている。

なお、「4つのどれにも使われている」との回答は全体で24.4%であるが親においては33.3%と回答比率が高い。

【食品添加物を使っていない飲み物はどれだと思いますか？】

	牛乳	缶入りお茶	スポーツ飲料	炭酸飲料	上記4つのどれにも使われている
全体 (n=3000)	63.4	22.3	8.1	5.6	24.4
中学生 (n=1500)	69.5	28.1	9.5	6.2	15.5
親 (n=1500)	57.3	16.5	6.7	5.1	33.3

Q10. 次の物質のうちどれが食品添加物だと思いますか？

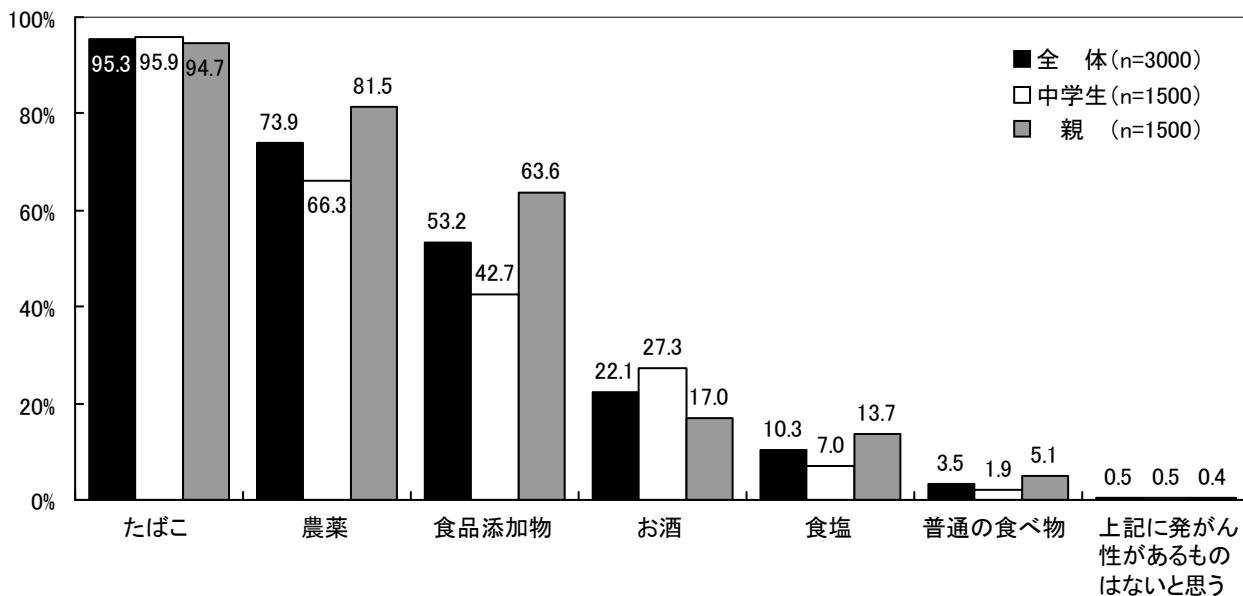


提示した4つの食品添加物のうち、それぞれを食品添加物として認識した比率をみると「発色剤(亜硝酸Na)」が全体で90.1%、中学生で84.9%、親で95.4%と最も強く意識されている。2番目以下は、全体では「酸化防止剤」75.3%、「リン酸塩」62.8%、「調味料」58.0%という認識になっている。なお、親においては、それぞれ「酸化防止剤」84.8%、「リン酸塩」73.4%、「調味料」68.1%、いずれも中学生よりも親の回答比率が高く、中学生と親との知識の差が大きく表れている。

【次の物質のうちどれが食品添加物だと思いますか？】

	発色剤 (亜硝酸 Na)	酸化防止剤 (ビタミン C)	リン酸塩 (Na)	調味料 (アミノ酸等)	上記4つはすべて食品添加物ではない
全体 (n=3000)	90.1	75.3	62.8	58.0	2.5
中学生 (n=1500)	84.9	65.8	52.3	47.9	3.7
親 (n=1500)	95.4	84.8	73.4	68.1	1.4

Q11. 発がん性が高いと感じるものはどれですか？



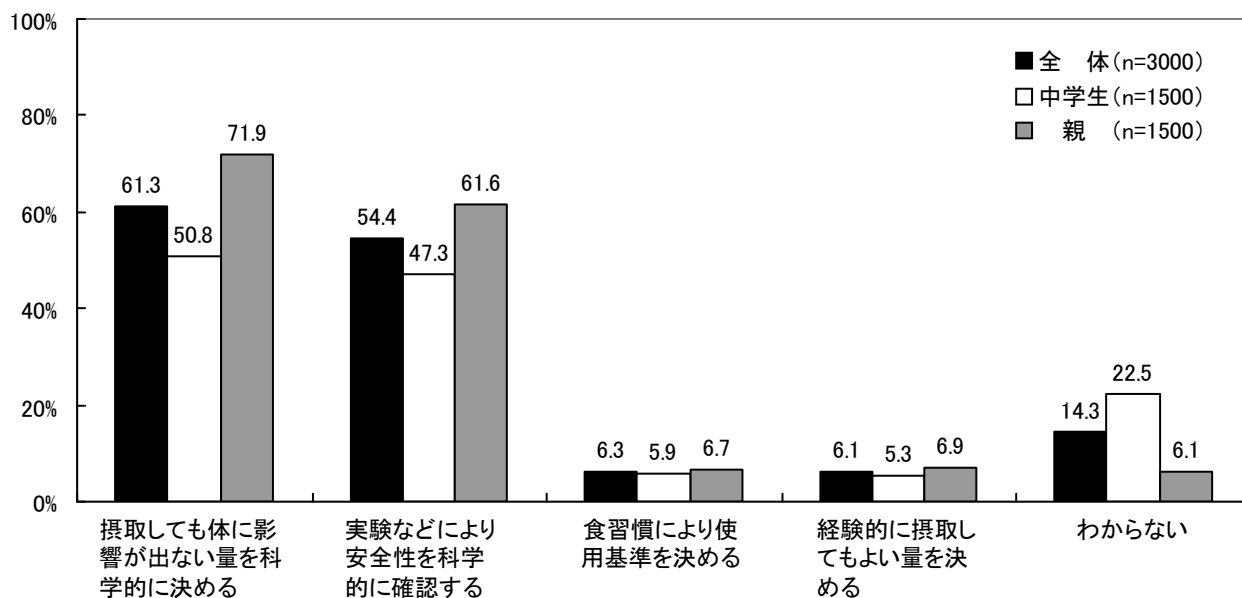
発ガン性が高いと感じるものとして、提示した 6 つの品目の中では、「たばこ」が全体で 95.3%、中学生 95.9%、親 94.7%と最も強く意識されている。2 番目は「農薬」が全体で 73.9%、親で 81.5%、3 番目は「食品添加物」が全体で 53.2%、親で 63.6%となっている。次いで、「お酒」が全体で 22.1%、「食塩」が全体で 10.3%であった。「普通の食べ物」は全体で 3.5%、中学生で 1.9%、親で 5.1%にとどまっている。

【発がん性が高いと感じるものはどれですか？】

	たばこ	農薬	食品添加物	お酒	食塩	普通の食べ物	上記に発がん性があるものはないと思う
全体 (n=3000)	95.3	73.9	53.2	22.1	10.3	3.5	0.5
中学生 (n=1500)	95.9	66.3	42.7	27.3	7.0	1.9	0.5
親 (n=1500)	94.7	81.5	63.6	17.0	13.7	5.1	0.4

Q12. 食品添加物は法律でその成分や使用量について厳しく規制されています。

下記のうち正しいものはどれですか？



食品添加物の規制について、「摂取しても体に影響が出ない量を科学的に決める」と正しく認識しているのは、全体で 61.3%、中学生で 50.8%、親で 71.9% という結果になった。

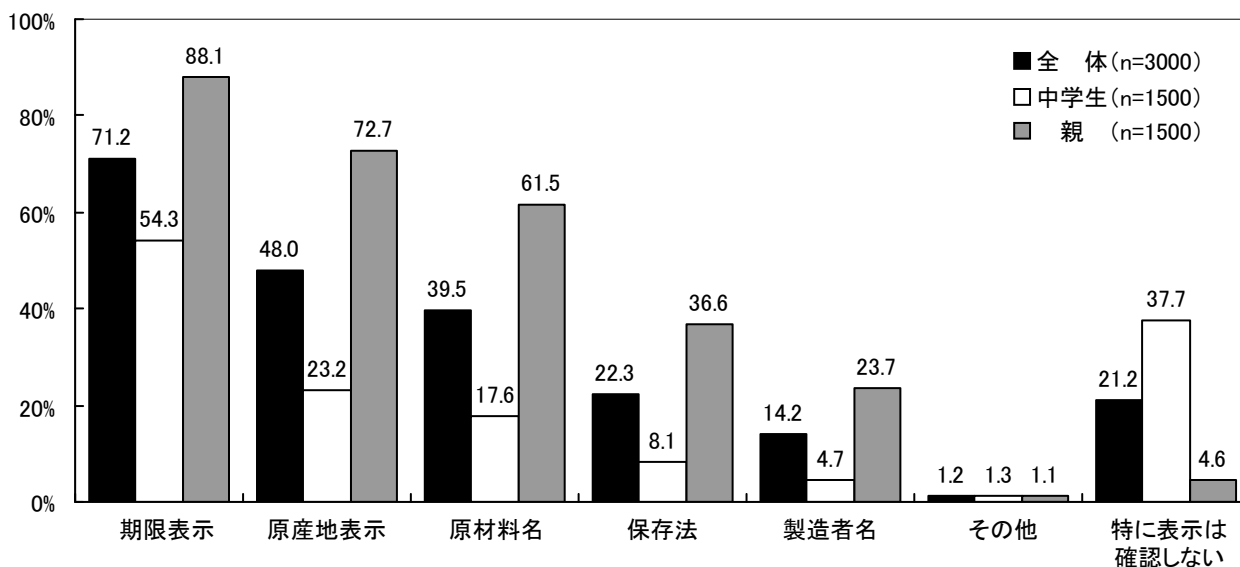
「実験などにより安全性を科学的に確認する」については、全体で 54.4%、中学生で 47.3%、親で 61.6% と誤認率が高く表れている。

なお、「わからない」は全体で 14.3%、中学生で 22.5%、親で 6.1% であった。

【食品添加物は法律でその成分や使用量について厳しく規制されています。下記のうち正しいものはどれですか？】

	摂取しても体に影響が出ない量を科学的に決める	実験などにより安全性を科学的に確認する	食習慣により使用基準を決める	経験的に摂取してもよい量を決める	わからない
全体 (n=3000)	61.3	54.4	6.3	6.1	14.3
中学生 (n=1500)	50.8	47.3	5.9	5.3	22.5
親 (n=1500)	71.9	61.6	6.7	6.9	6.1

Q13. 食品を購入する際、どの表示を見ますか？



食品を購入する際、「特に表示は確認しない」との回答が全体で 21.2%、中学生では 37.7%が該当する。親においては、4.6%にとどまり、ほぼ全ての親が食品を購入する際には何らかの表示を確認しており、表示への注目度・関心度は高いといえる。

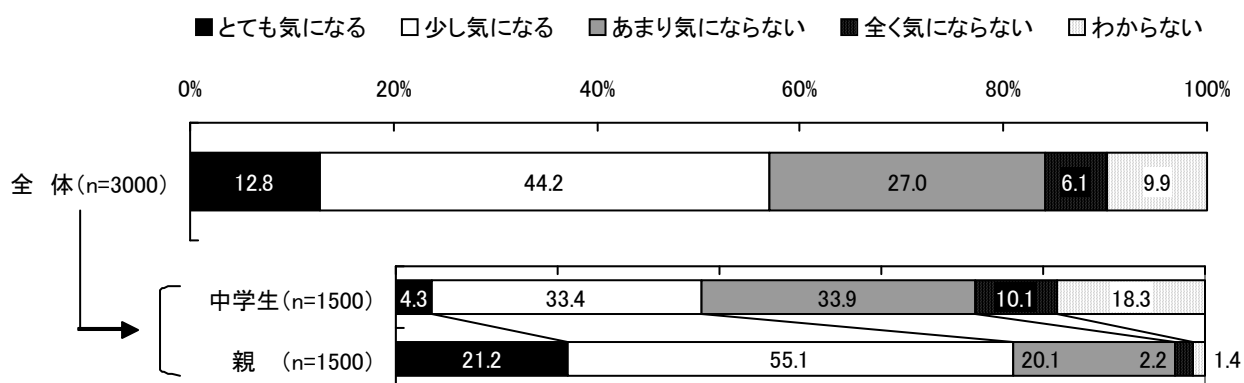
食品を購入する際の表示では、「期限表示」「原産地表示」「原材料名」「保存法」「製造者名」の順に注目度が高い。

最も注目度の高い、「期限表示」は、全体で71.2%、中学生でも54.3%、親では88.1%に達する。2番目に注目度の高い「原産地表示」は全体で48.0%、親では72.7%、3番目の「原材料名」は全体で39.5%、親では61.5%となっている。

【食品を購入する際、どの表示を見ますか？】

	期限表示	原産地表示	原材料名	保存法	製造者名	その他	特に表示は確認しない
全体 (n=3000)	71.2	48.0	39.5	22.3	14.2	1.2	21.2
中学生 (n=1500)	54.3	23.2	17.6	8.1	4.7	1.3	37.7
親 (n=1500)	88.1	72.7	61.5	36.6	23.7	1.1	4.6

Q14. 食品を購入する際、表示を見て、食品添加物が使われていることが気になりますか？



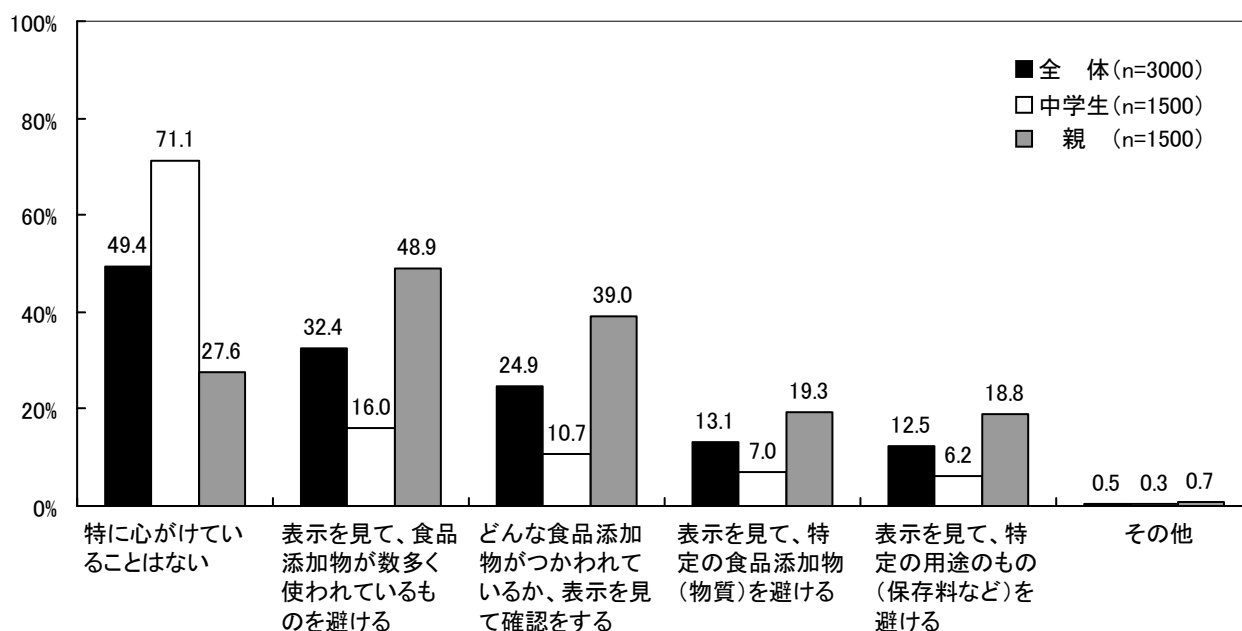
食品購入時に表示を見て食品添加物が使われていることについて、全体では「とても気になる」が12.8%、「少し気になる」が44.2%で、全体の6割近くは食品添加物が使われていることを気にしていることがわかる。なお、「あまり気にならない」は27.0%、「全く気にならない」は6.1%で、全体の3割強は気にしていない。

ただし、中学生と親の認識は大きく異なり、中学生においては「とても気になる」が4.3%、「少し気になる」が33.4%で合わせて4割弱であるのに対し、親においては、「とても気になる」が21.2%、「少し気になる」が55.1%で合わせて8割近くが表示をみて食品添加物が使われていることを気にしていることがわかる。

【食品を購入する際、表示を見て、食品添加物が使われていることが気になりますか？】

	とても気になる	少し気になる	あまり気にならない	全く気にならない	わからない
全体 (n=3000)	12.8	44.2	27.0	6.1	9.9
中学生 (n=1500)	4.3	33.4	33.9	10.1	18.3
親 (n=1500)	21.2	55.1	20.1	2.2	1.4

Q15. 食品添加物が使われている食品を購入する際、心がけていることはありますか？



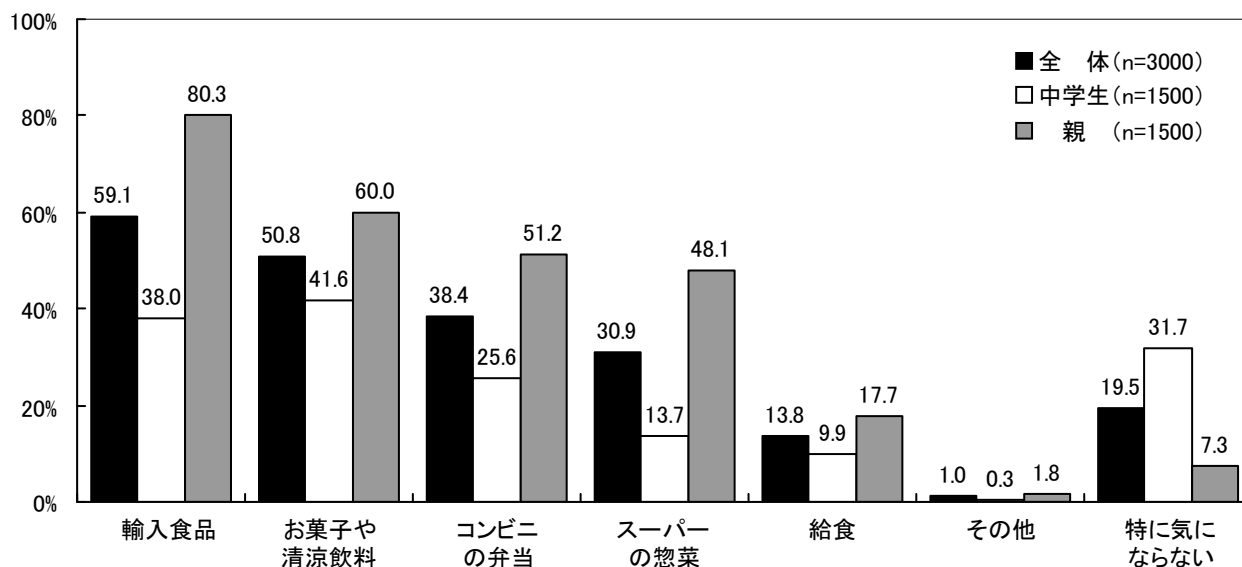
食品添加物が使われている食品を購入する際、「特に心がけていることはない」が全体で49.4%、中学生で71.1%、親で27.6%となっている。このように中学生と親では意識に大きな差が表れている。

親の7割が何らかのことを心がけていることになるが、その内容としては、「数多く使われているものを避ける」48.9%、「使われている食品添加物を確認」39.0%、「特定の食品添加物を避ける」19.3%、「特定の用途のものを避ける」18.8%となっている。

【食品添加物が使われている食品を購入する際、心がけていることはありますか？】

	特に心がけていることはない	表示を見て、食品添加物が数多く使われているものを避ける	どんな食品添加物がかかわっているか、表示を見て確認をする	表示を見て、特定の食品添加物(物質)を避ける	表示を見て、特定の用途のもの(保存料など)を避ける	その他
全体 (n=3000)	49.4	32.4	24.9	13.1	12.5	0.5
中学生 (n=1500)	71.1	16.0	10.7	7.0	6.2	0.3
親 (n=1500)	27.6	48.9	39.0	19.3	18.8	0.7

Q16. 食品添加物の安全性は、どの食品において気になりますか？

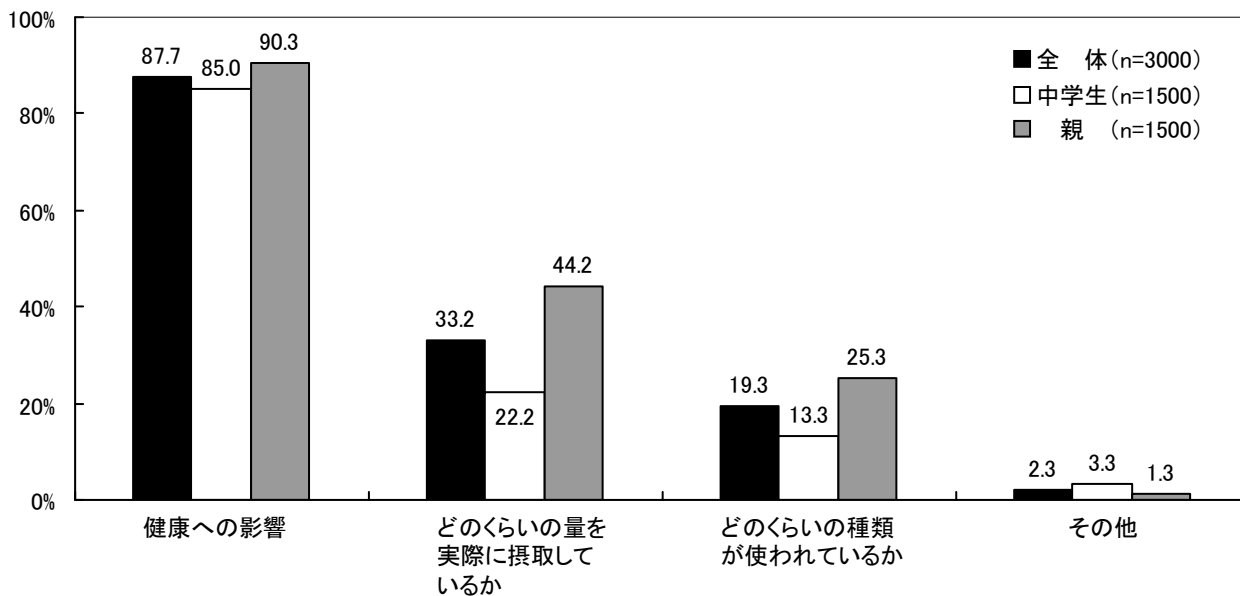


食品添加物の安全性が気になる食品として、提示した 5 品目で最も回答の多かったものは「輸入食品」で、全体で 59.1%、中学生で 38.0%、親においては 80.3%と強く意識されている。2 番目は「お菓子や清涼飲料」で、全体で 50.8%、中学生で 41.6%、親で 60.0%、3 番目は「コンビニの弁当」で、全体で 38.4%、中学生で 25.6%、親で 51.2%となっている。4 番目は「スーパーの惣菜」で、全体で 30.9%、中学生で 13.7%、親で 48.1%、最後に「給食」で、全体で 13.8%、中学生で 9.9%、親で 17.7%であった。このように全ての品目において、親の回答比率は中学生を大きく上回っていた。なお、「特に気にならない」は全体で 19.5%、中学生で 31.7%、親で 7.3%となっている。

【食品添加物の安全性は、どの食品において気になりますか？】

	輸入食品	お菓子や清涼飲料	コンビニの弁当	スーパーの惣菜	給食	その他	特に気にならない
全体 (n=3000)	59.1	50.8	38.4	30.9	13.8	1.0	19.5
中学生 (n=1500)	38.0	41.6	25.6	13.7	9.9	0.3	31.7
親 (n=1500)	80.3	60.0	51.2	48.1	17.7	1.8	7.3

Q17. 食品添加物について、気になることは何ですか？



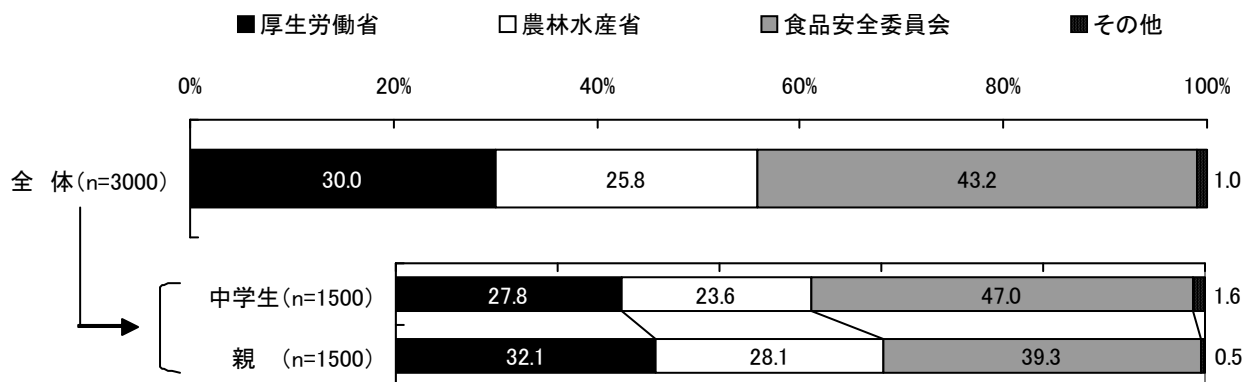
食品添加物について気になることは何かとの問いに対して、全体で 87.7%、中学生で 85.0%、親で 90.3%が「健康への影響」と回答した。

「どのくらいの量を実際に摂取しているか」は全体で 33.2%、中学生で 22.2%、親で 44.2%、「どのくらいの種類が使われているか」は全体で 19.3%、中学生で 13.3%、親で 25.3%にとどまった。

【食品添加物について、気になることは何ですか？】

	健康への影響	どのくらいの量を実際に摂取しているか	どのくらいの種類が使われているか	その他
全体 (n=3000)	87.7	33.2	19.3	2.3
中学生 (n=1500)	85.0	22.2	13.3	3.3
親 (n=1500)	90.3	44.2	25.3	1.3

Q18. 食品添加物の安全性を評価している公的機関はどこだと思いますか？



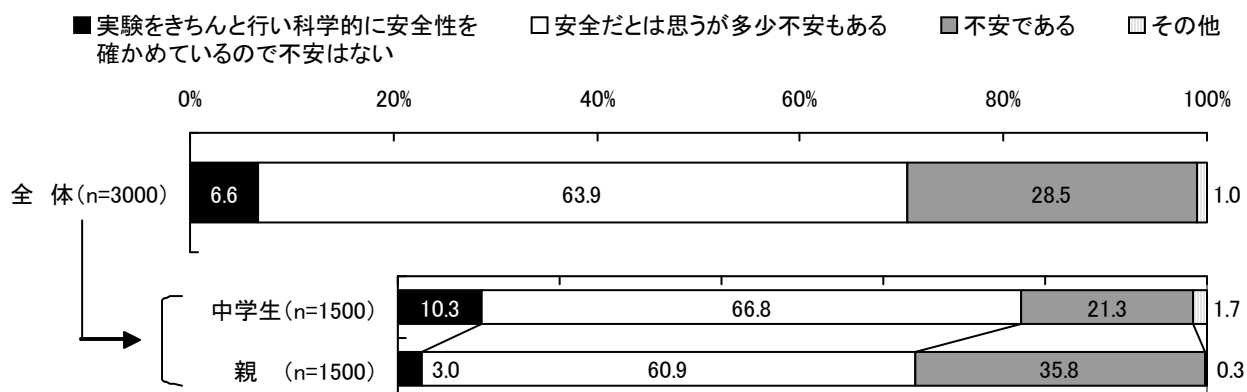
食品添加物の安全性を評価している公的機関が「食品安全委員会」であると正しく認識できているのは、全体の43.2%である。中学生で47.0%、親で39.3%というように、親よりも中学生のほうが正しい認識をしている比率が上回っている。

なお、「厚生労働省」「農林水産省」もそれぞれ3割程度が回答しており、三者が明確に区別されて認識されているとは限らない。

【食品添加物の安全性を評価している公的機関はどこだと思いますか？】

	厚生労働省	農林水産省	食品安全委員会	その他
全体 (n=3000)	30.0	25.8	43.2	1.0
中学生 (n=1500)	27.8	23.6	47.0	1.6
親 (n=1500)	32.1	28.1	39.3	0.5

Q19. 日本の食品添加物の安全性は、きちんと確保されていると思いますか？

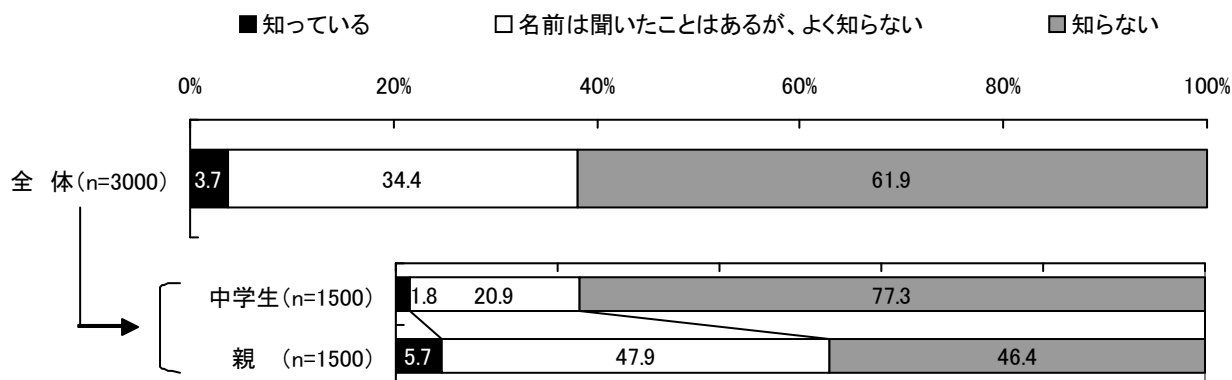


食品添加物の安全性の確保については、「多少不安もある」が全体の 63.9% で最も多く、「不安である」が全体で 28.5% で、全体の 92.4% が食品添加物の安全性に不安に感じているという結果になった。「不安である」は、中学生で 21.3%、親で 35.8% というように、親のほうが不安をやや強く感じている。

【日本の食品添加物の安全性は、きちんと確保されていると思いますか？】

	実験をきちんと行い科学的に安全性を確かめているので不安はない	安全だとは思いますが多少不安もある	不安である	その他
全体 (n=3000)	6.6	63.9	28.5	1.0
中学生 (n=1500)	10.3	66.8	21.3	1.7
親 (n=1500)	3.0	60.9	35.8	0.3

Q20. 食品安全委員会を知っていますか？



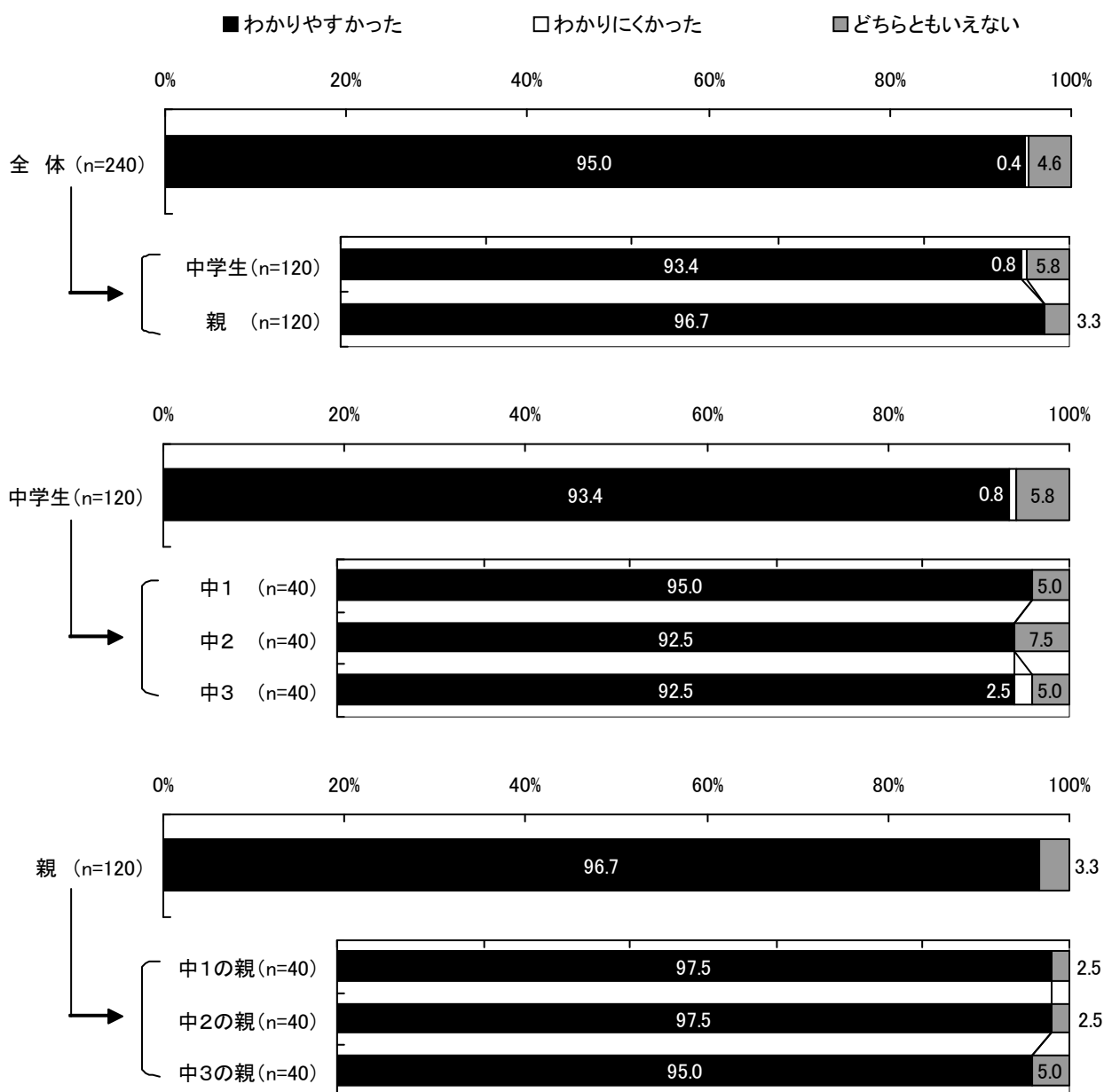
食品安全委員会を「知っている」のは全体の 3.7%、「聞いた事はあるがよく知らない」34.4%、「知らない」61.9%というように、食品安全委員会の認知度は高いとはいえない。中学生と親を比較すると、親のほうが「知っている」「聞いたことはあるがよく知らない」の回答比率は高いものの、「知らない」が 46.4%に達している。

【食品安全委員会を知っていますか？】

	知っている	名前は聞いたことはあるが、よく知らない	知らない
全体 (n=3000)	3.7	34.4	61.9
中学生 (n=1500)	1.8	20.9	77.3
親 (n=1500)	5.7	47.9	46.4

2. 啓発効果測定調査

Q1. ビデオはわかりやすかったですか？



意識調査の結果を踏まえて制作したビデオ「気になる食品添加物」(27分)を視聴後にビデオのわかりやすさをたずねたところ、「わかりやすかった」は、全体で95.0%、中学生で93.4%、親で96.7%という結果になった。

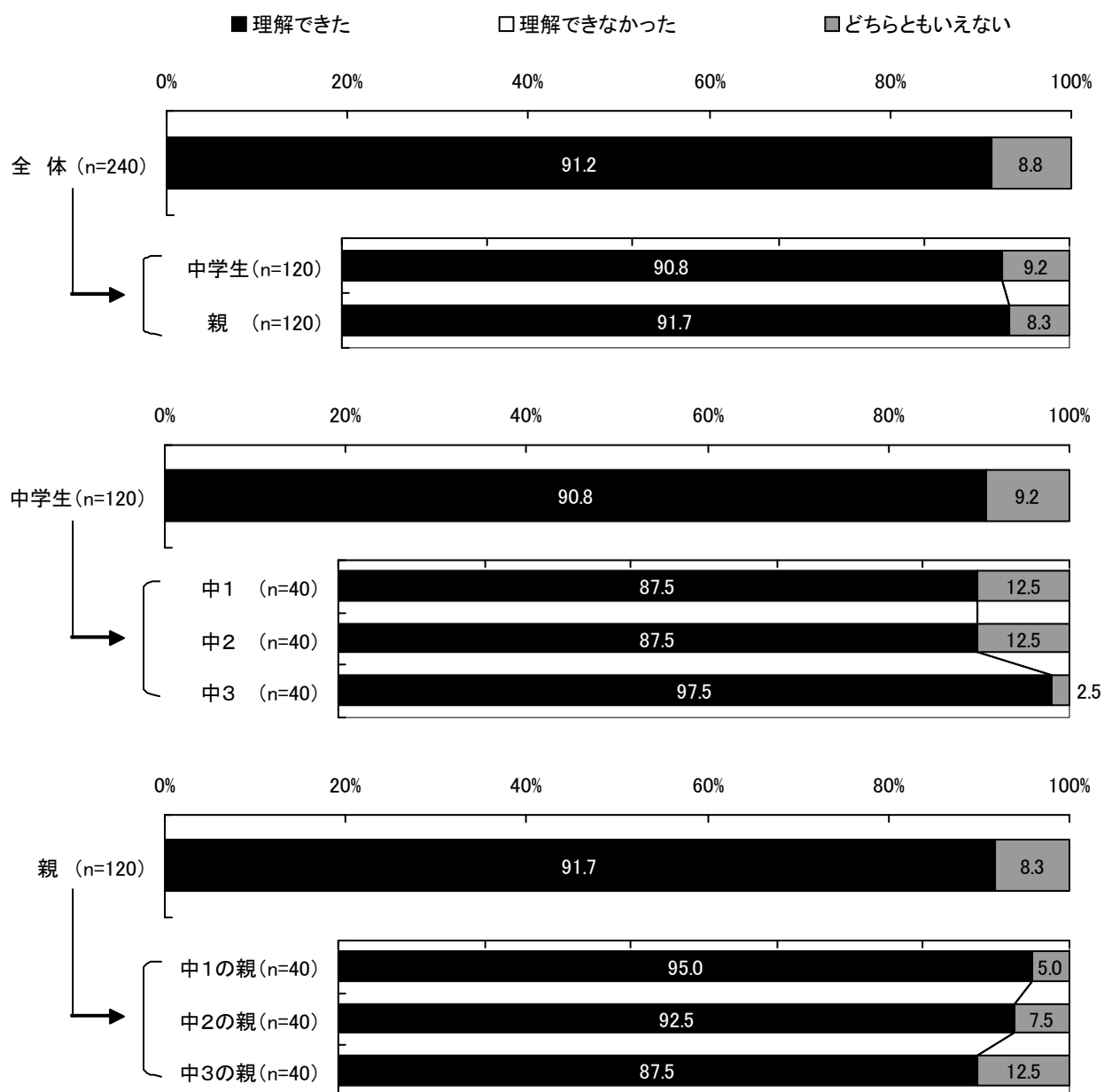
【ビデオはわかりやすかったですか？】

		わかりやすかった	わかりにくかった	どちらともいえない
全 体	(n=240)	95.0	0.4	4.6
	中学生 (n=120)	93.4	0.8	5.8
	親 (n=120)	96.7	0.0	3.3

		わかりやすかった	わかりにくかった	どちらともいえない
中学生	(n=120)	93.4	0.8	5.8
	中 1 (n=40)	95.0	0.0	5.0
	中 2 (n=40)	92.5	0.0	7.5
	中 3 (n=40)	92.5	2.5	5.0

		わかりやすかった	わかりにくかった	どちらともいえない
親	(n=120)	96.7	0.0	3.3
	中 1 の親 (n=40)	97.5	0.0	2.5
	中 2 の親 (n=40)	97.5	0.0	2.5
	中 3 の親 (n=40)	95.0	0.0	5.0

Q2. 食品添加物の安全性について理解できましたか？



食品添加物の安全性について、「理解できた」との回答は、全体で91.2%、中学生で90.8%、親で91.7%という結果になった。

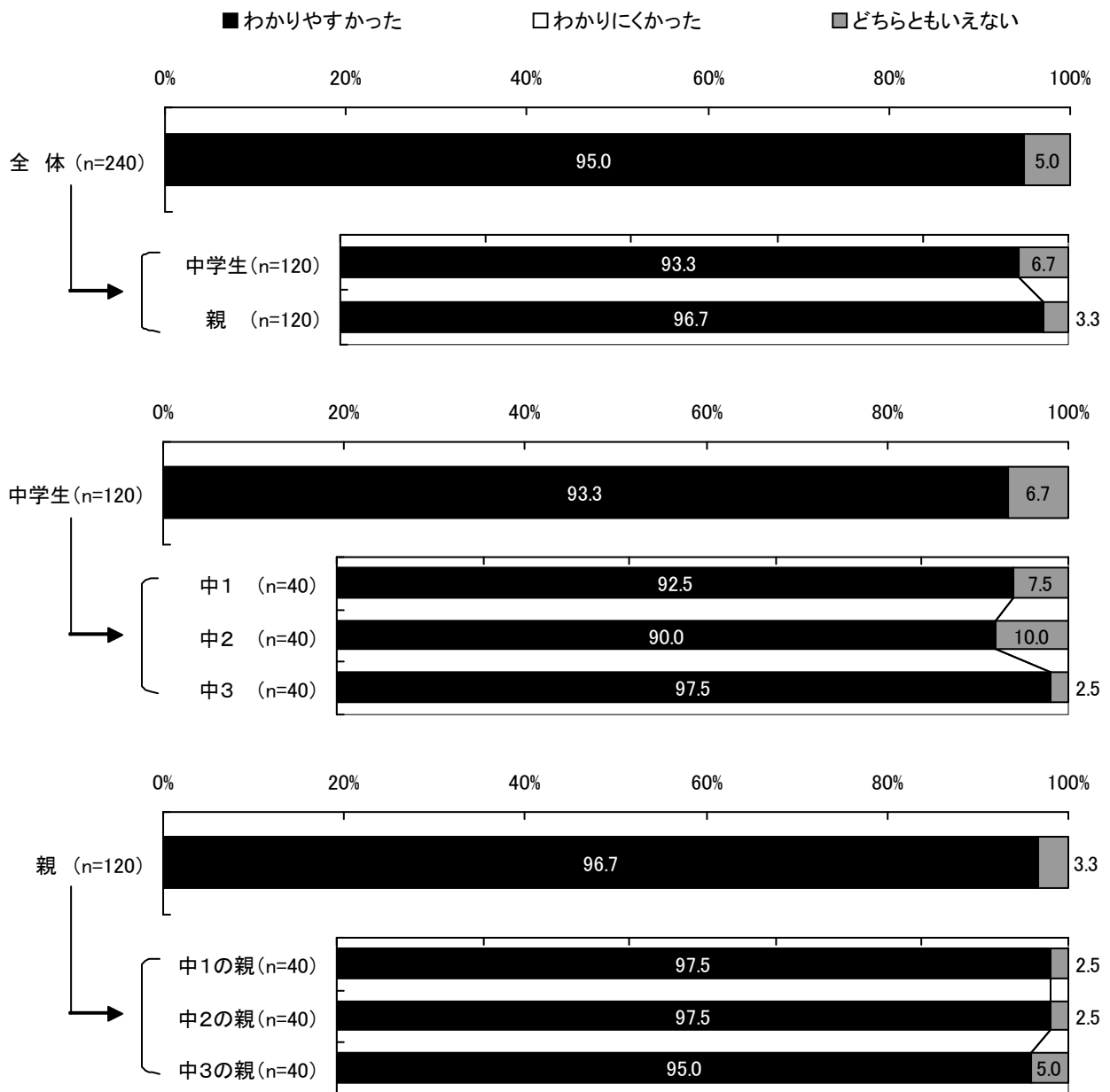
【食品添加物の安全性について理解できましたか？】

		理解できた	理解できなかった	どちらともいえない
全 体	(n=240)	91.2	0.0	8.8
中学生	(n=120)	90.8	0.0	9.2
親	(n=120)	91.7	0.0	8.3

		理解できた	理解できなかった	どちらともいえない
中学生	(n=120)	90.8	0.0	9.2
中 1	(n=40)	87.5	0.0	12.5
中 2	(n=40)	87.5	0.0	12.5
中 3	(n=40)	97.5	0.0	2.5

		理解できた	理解できなかった	どちらともいえない
親	(n=120)	91.7	0.0	8.3
中 1 の親	(n=40)	95.0	0.0	5.0
中 2 の親	(n=40)	92.5	0.0	7.5
中 3 の親	(n=40)	87.5	0.0	12.5

Q3. 物語形式のビデオでしたが、如何でしたか？



物語形式のビデオについては、「わかりやすかった」との回答は、全体で 95.0%、中学生で 93.3%、親で 96.7%という結果になった。

Q1～Q3 の結果から、「ビデオのわかりやすさ」「安全性の理解」「物語形式のわかりやすさ」は概ね問題なく、ビデオによる表現手法については、わかりやすく内容を伝えていると評価されている。

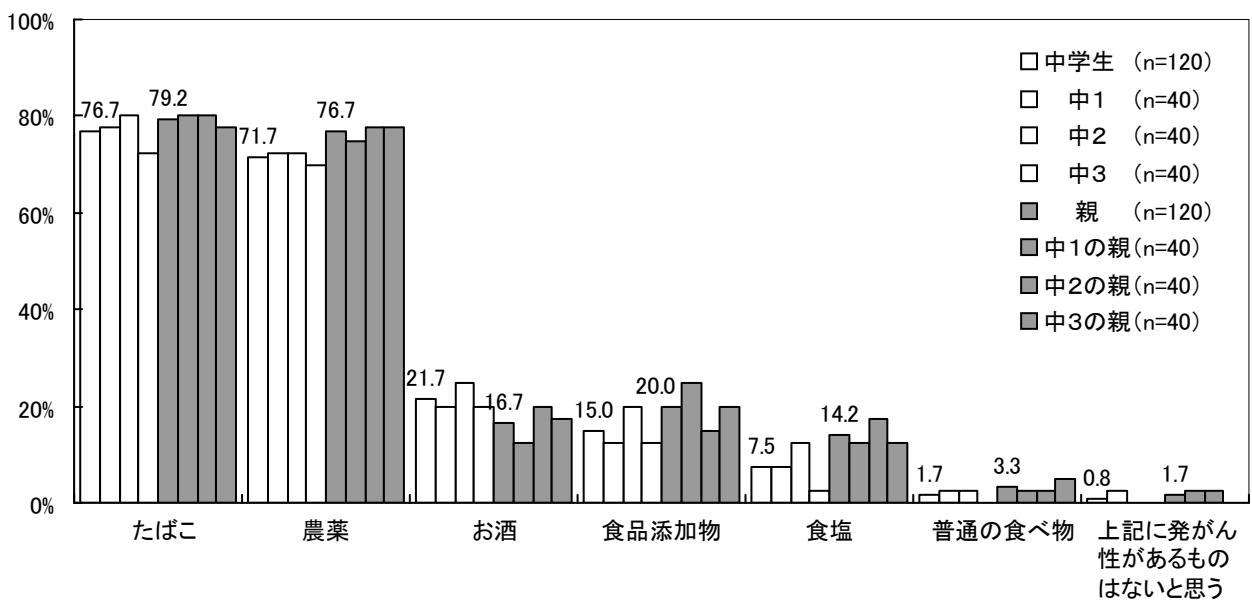
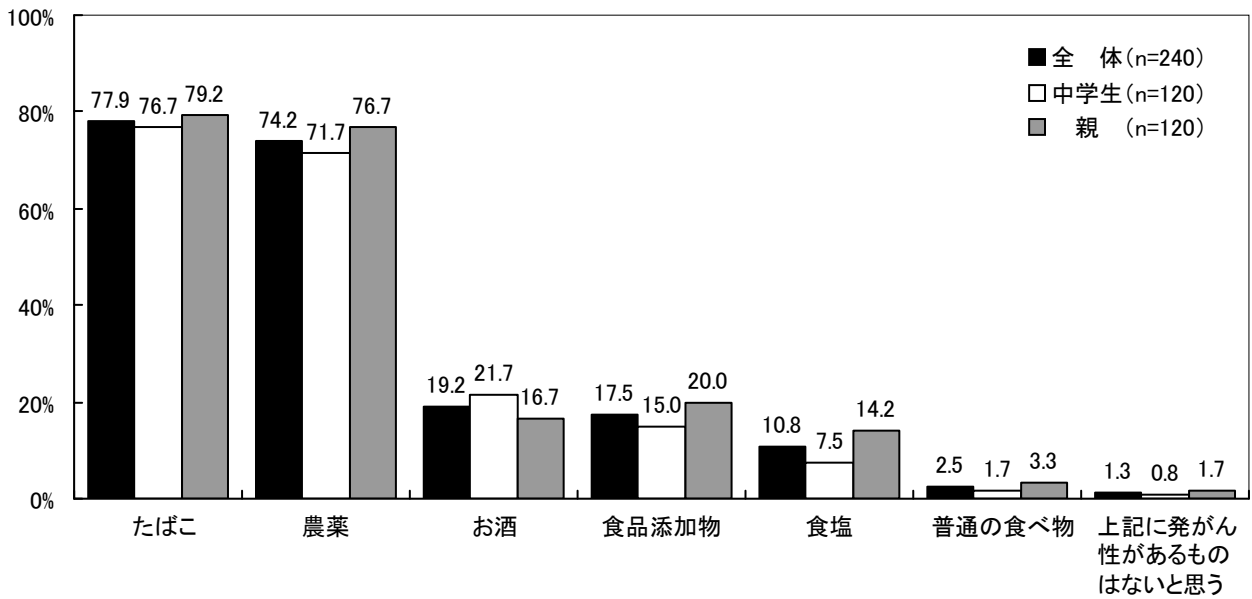
【物語形式のビデオでしたが、如何でしたか？】

	わかりやすかった	わかりにくかった	どちらともいえない
全 体 (n=240)	95.0	0.0	5.0
中学生 (n=120)	93.3	0.0	6.7
親 (n=120)	96.7	0.0	3.3

	わかりやすかった	わかりにくかった	どちらともいえない
中学生 (n=120)	93.3	0.0	6.7
中 1 (n=40)	92.5	0.0	7.5
中 2 (n=40)	90.0	0.0	10.0
中 3 (n=40)	97.5	0.0	2.5

	わかりやすかった	わかりにくかった	どちらともいえない
親 (n=120)	96.7	0.0	3.3
中 1 の親 (n=40)	97.5	0.0	2.5
中 2 の親 (n=40)	97.5	0.0	2.5
中 3 の親 (n=40)	95.0	0.0	5.0

Q4. 発がん性が高いと感じるものはどれですか？



ビデオ視聴前の意識調査で、発ガン性が高いと感じるものとして、53.2%だった「食品添加物」は、ビデオ視聴後のこの調査では17.5%に減少した。

一方、「たばこ」と「農薬」は、依然として発がん性が高いと感じる上位項目となっており、この調査では、「たばこ」が全体で77.9%、中学生76.7%、親79.2%、「農薬」が全体で74.2%、中学生で71.7%、親で76.7%となっている。

→P30【意識調査 Q11 参照】

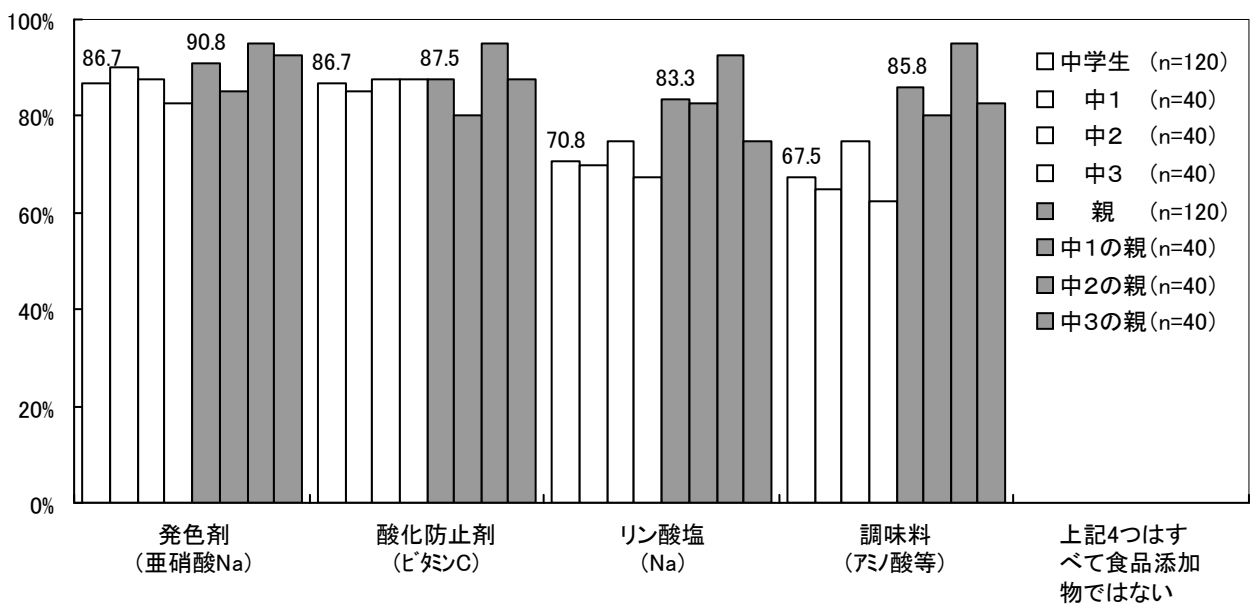
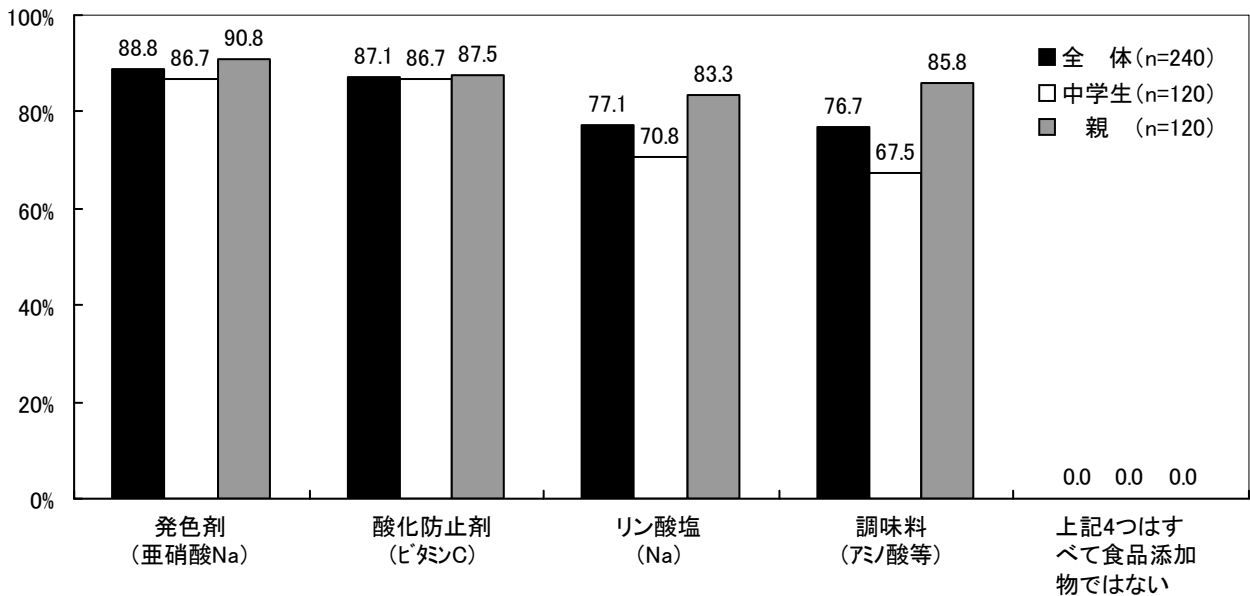
【発がん性が高いと感じるものはどれですか？】

	たばこ	農薬	お酒	食品 添加物	食塩	普通の 食べ物	上記に発 がん性が あるもの はないと 思う
全 体 (n=240)	77.9	74.2	19.2	17.5	10.8	2.5	1.3
中学生 (n=120)	76.7	71.7	21.7	15.0	7.5	1.7	0.8
親 (n=120)	79.2	76.7	16.7	20.0	14.2	3.3	1.7

	たばこ	農薬	お酒	食品 添加物	食塩	普通の 食べ物	上記に発 がん性が あるもの はないと 思う
中学生 (n=120)	76.7	71.7	21.7	15.0	7.5	1.7	0.8
中 1 (n=40)	77.5	72.5	20.0	12.5	7.5	2.5	2.5
中 2 (n=40)	80.0	72.5	25.0	20.0	12.5	2.5	0.0
中 3 (n=40)	72.5	70.0	20.0	12.5	2.5	0.0	0.0

	たばこ	農薬	お酒	食品 添加物	食塩	普通の 食べ物	上記に発 がん性が あるもの はないと 思う
親 (n=120)	79.2	76.7	16.7	20.0	14.2	3.3	1.7
中 1 の親 (n=40)	80.0	75.0	12.5	25.0	12.5	2.5	2.5
中 2 の親 (n=40)	80.0	77.5	20.0	15.0	17.5	2.5	2.5
中 3 の親 (n=40)	77.5	77.5	17.5	20.0	12.5	5.0	0.0

Q5. 次の物質のうちどれが食品添加物だと思いますか？



ビデオ視聴前の意識調査と同様に、提示した4つの食品添加物のうち、それぞれを食品添加物として認識した回答比率を前回調査との比較でみると、「発色剤(亜硝酸 Na)」が 90.1%→88.8%、「酸化防止剤(ビタミン C)」75.3%→87.1%、「リン酸塩 (Na)」62.8%→77.1%、「調味料(アミノ酸等)」58.0%→76.7%というように、もともと注目度の高かった「発色剤(亜硝酸 Na)」を除き、いずれも回答比率が高くなった。

親においては、特に「リン酸塩 (Na)」73.4%→83.3%、「調味料(アミノ酸等)」68.1%→85.8%というように、ビデオ視聴によって、さらに回答比率が高くなっている。

→P29【意識調査 Q10 参照】

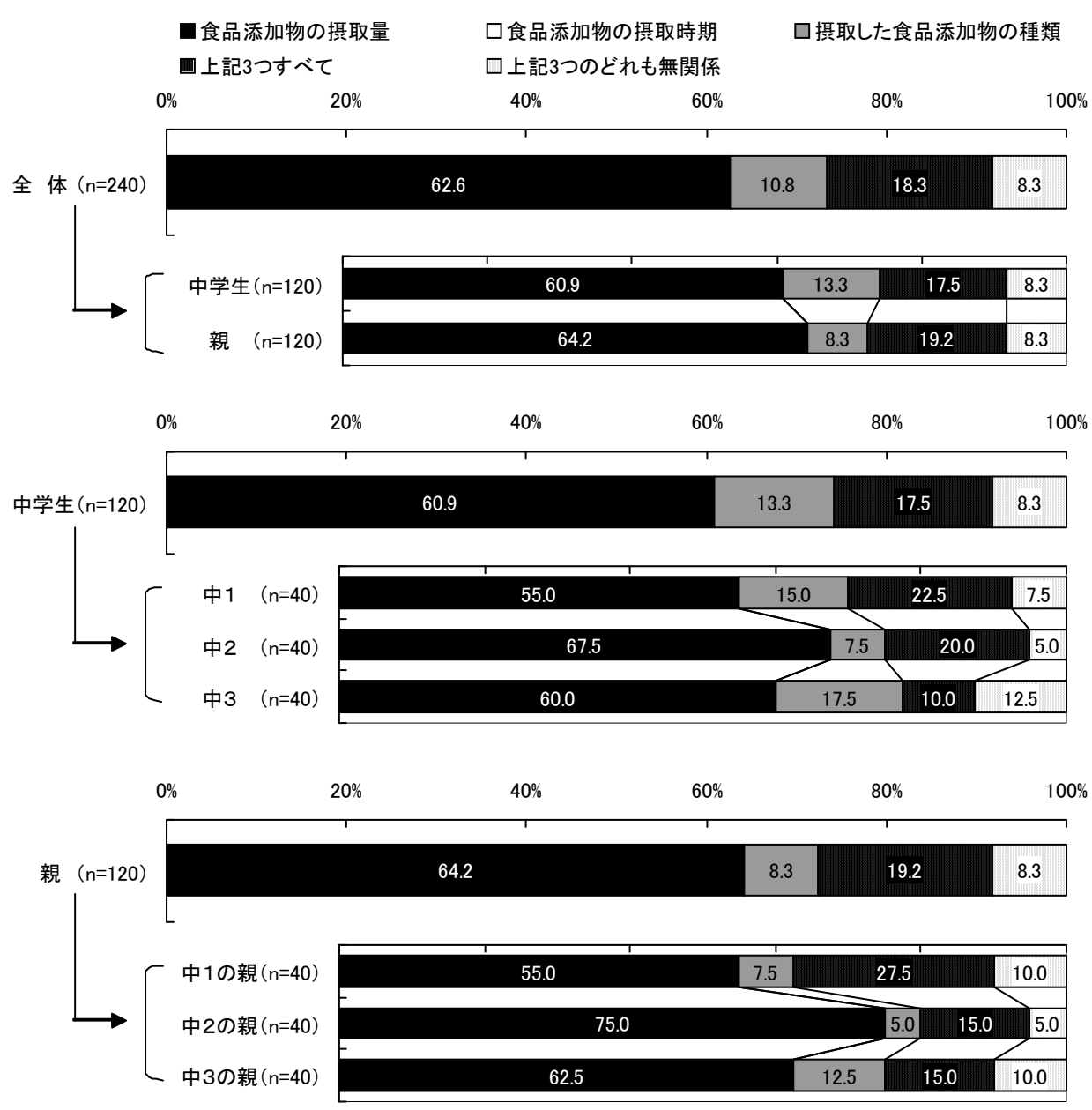
【次の物質のうちどれが食品添加物だと思いますか？】

	発色剤 (亜硝酸 Na)	酸化防止剤 (ビタミン C)	リン酸塩 (Na)	調味料 (アミノ酸等)	上記4つはすべて食品添加物ではない
全 体 (n=240)	88.8	87.1	77.1	76.7	0.0
中学生 (n=120)	86.7	86.7	70.8	67.5	0.0
親 (n=120)	90.8	87.5	83.3	85.8	0.0

	発色剤 (亜硝酸 Na)	酸化防止剤 (ビタミン C)	リン酸塩 (Na)	調味料 (アミノ酸等)	上記4つはすべて食品添加物ではない
中学生 (n=120)	86.7	86.7	70.8	67.5	0.0
中 1 (n=40)	90.0	85.0	70.0	65.0	0.0
中 2 (n=40)	87.5	87.5	75.0	75.0	0.0
中 3 (n=40)	82.5	87.5	67.5	62.5	0.0

	発色剤 (亜硝酸 Na)	酸化防止剤 (ビタミン C)	リン酸塩 (Na)	調味料 (アミノ酸等)	上記4つはすべて食品添加物ではない
親 (n=120)	90.8	87.5	83.3	85.8	0.0
中 1 の親 (n=40)	85.0	80.0	82.5	80.0	0.0
中 2 の親 (n=40)	95.0	95.0	92.5	95.0	0.0
中 3 の親 (n=40)	92.5	87.5	75.0	82.5	0.0

Q6. 現在流通している食品に使われている食品添加物が人間の健康を害するかどうかの一番のポイントは、次のうちどれだと思いますか？



現在流通している食品に使われている食品添加物が人間の健康を害するかどうかの一番のポイントが「食品添加物の摂取量」と正しく認識できたのは、全体で 62.6%、中学生で 60.9%、親で 64.2%という結果であった。

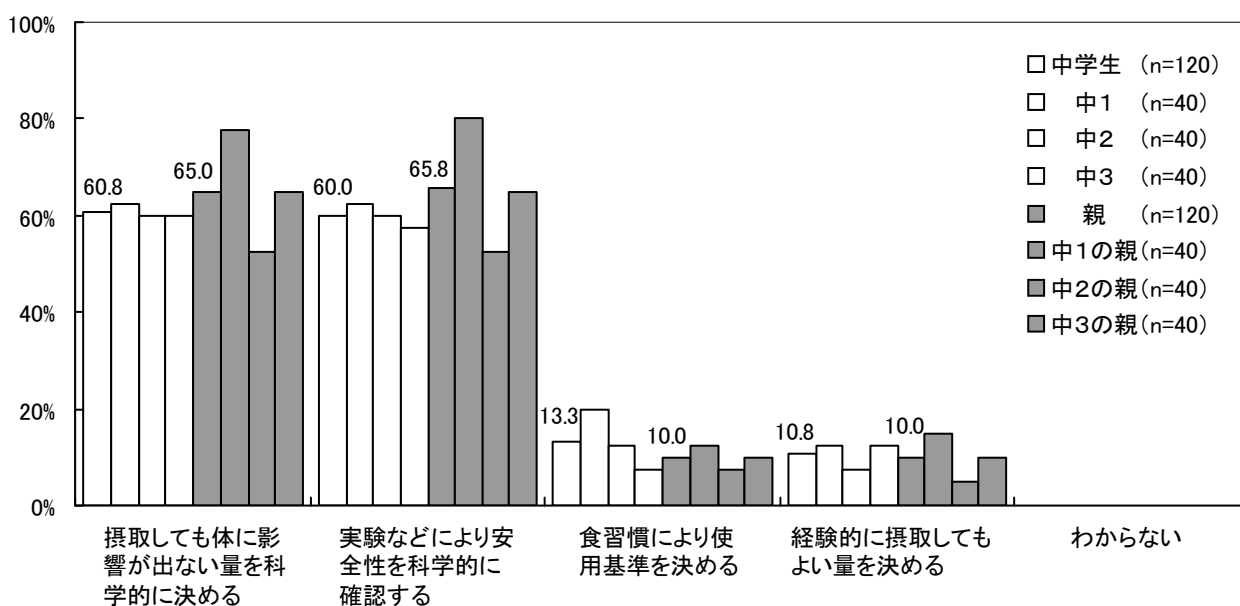
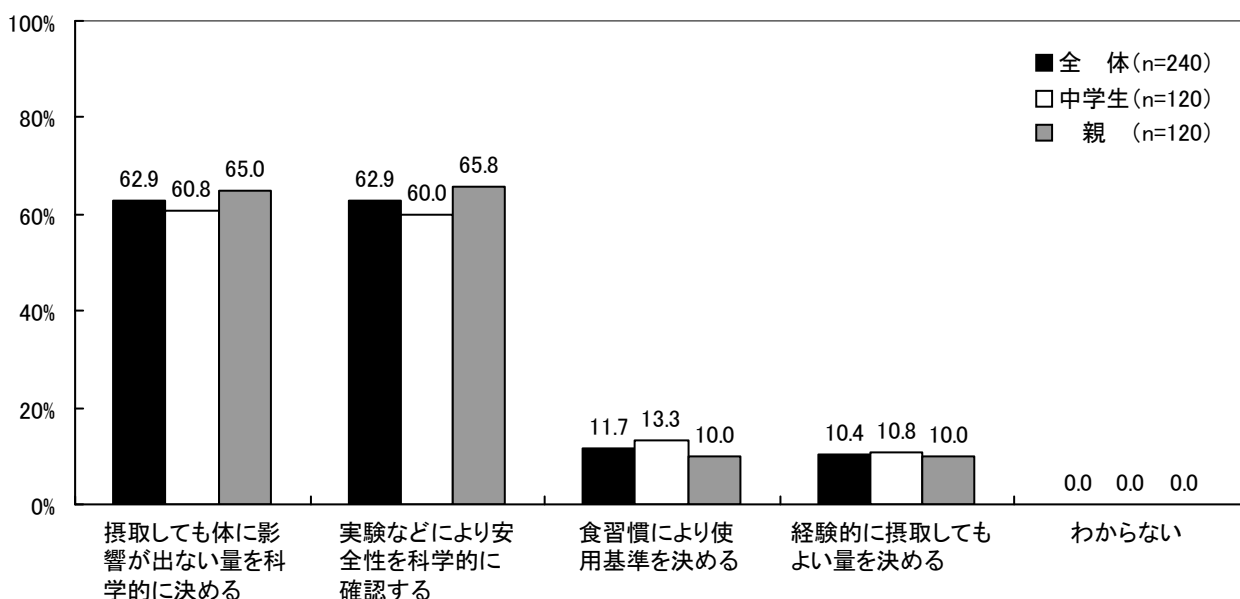
【現在流通している食品に使われている食品添加物が人間の健康を害するかどうかの一番のポイントは、次のうちどれだと思いますか？】

	食品添加物の摂取量	食品添加物の摂取時期	摂取した食品添加物の種類	上記3つすべて	上記3つのどれも無関係
全 体 (n=240)	62.6	0.0	10.8	18.3	8.3
中学生 (n=120)	60.9	0.0	13.3	17.5	8.3
親 (n=120)	64.2	0.0	8.3	19.2	8.3

	食品添加物の摂取量	食品添加物の摂取時期	摂取した食品添加物の種類	上記3つすべて	上記3つのどれも無関係
中学生 (n=120)	60.9	0.0	13.3	17.5	8.3
中 1 (n=40)	55.0	0.0	15.0	22.5	7.5
中 2 (n=40)	67.5	0.0	7.5	20.0	5.0
中 3 (n=40)	60.0	0.0	17.5	10.0	12.5

	食品添加物の摂取量	食品添加物の摂取時期	摂取した食品添加物の種類	上記3つすべて	上記3つのどれも無関係
親 (n=120)	64.2	0.0	8.3	19.2	8.3
中 1 の親 (n=40)	55.0	0.0	7.5	27.5	10.0
中 2 の親 (n=40)	75.0	0.0	5.0	15.0	5.0
中 3 の親 (n=40)	62.5	0.0	12.5	15.0	10.0

Q7. 食品添加物は法律でその成分や使用量について厳しく規制されています。下記のうち正しいものはどれですか？



食品添加物の規制について「体に影響が出ない量を科学的に決める」、「実験などにより安全性を科学的に確認する」と正しく認識できた回答比率をビデオ視聴前の意識調査と比較してみると、前者は全体で 61.3%→62.9%、中学生で 50.8%→60.8%、親で 71.9%→65.0%、後者は全体 54.4%→62.9%、中学生 47.3%→60.0%、親 61.6%→65.8%という結果になった。ビデオ視聴後の啓発効果は中学生には顕著に表れているが、親においては「体に影響が出ない量を科学的に決める」については 71.9%→65.0%と、ポイントダウンしており、十分な啓発効果は得られなかった。

なお、「わからない」は全体で 14.3%→ゼロとなった。

→P31【意識調査 Q12 参照】

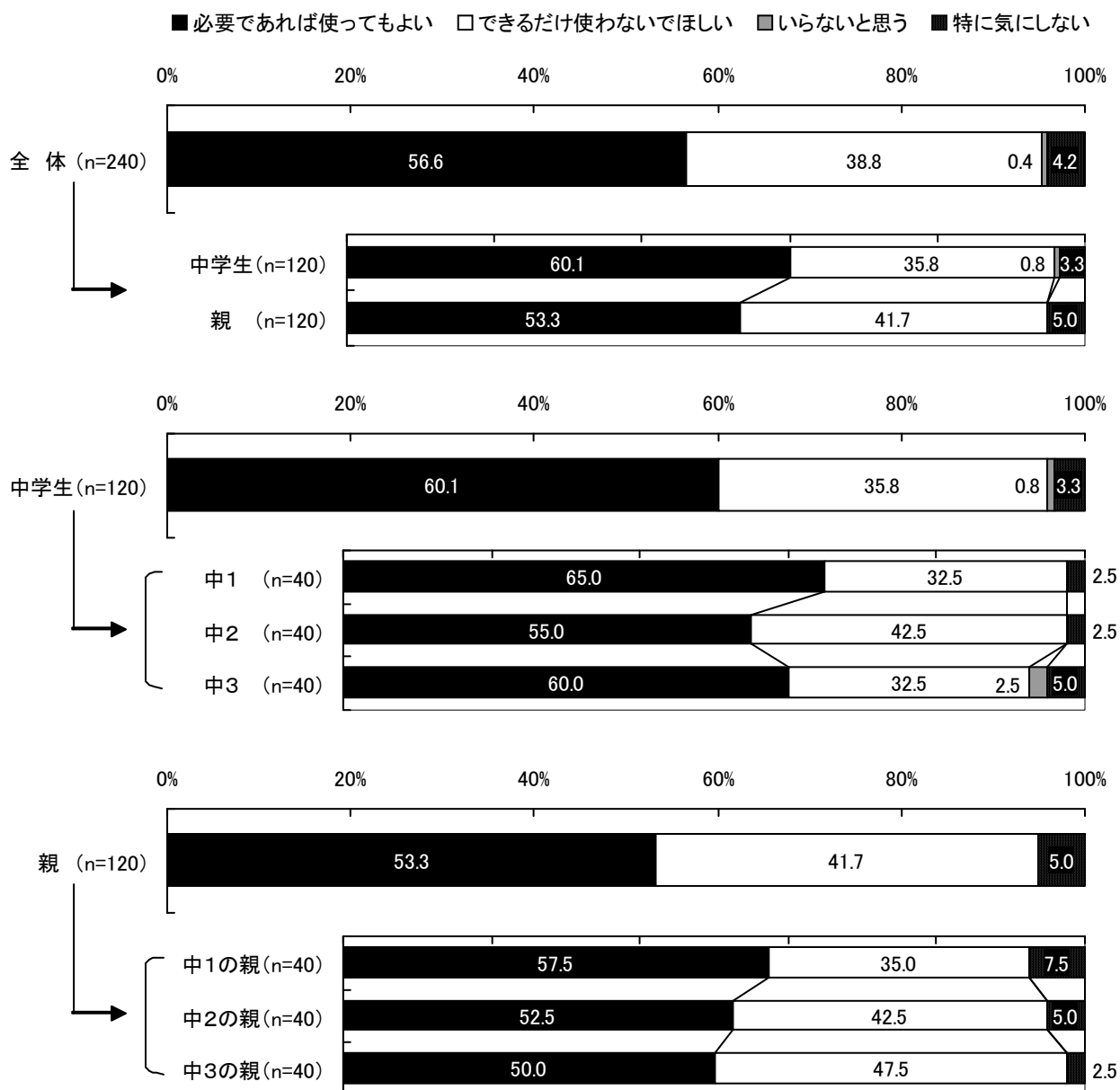
【食品添加物は法律でその成分や使用量について厳しく規制されています。下記のうち正しいものはどれですか？】

	摂取しても体に影響が出ない量を科学的に決める	実験などにより安全性を科学的に確認する	食習慣により使用基準を決める	経験的に摂取してもよい量を決める	わからない
全 体 (n=240)	62.9	62.9	11.7	10.4	0.0
中学生 (n=120)	60.8	60.0	13.3	10.8	0.0
親 (n=120)	65.0	65.8	10.0	10.0	0.0

	摂取しても体に影響が出ない量を科学的に決める	実験などにより安全性を科学的に確認する	食習慣により使用基準を決める	経験的に摂取してもよい量を決める	わからない
中学生 (n=120)	60.8	60.0	13.3	10.8	0.0
中 1 (n=40)	62.5	62.5	20.0	12.5	0.0
中 2 (n=40)	60.0	60.0	12.5	7.5	0.0
中 3 (n=40)	60.0	57.5	7.5	12.5	0.0

	摂取しても体に影響が出ない量を科学的に決める	実験などにより安全性を科学的に確認する	食習慣により使用基準を決める	経験的に摂取してもよい量を決める	わからない
親 (n=120)	65.0	65.8	10.0	10.0	0.0
中 1 の親 (n=40)	77.5	80.0	12.5	15.0	0.0
中 2 の親 (n=40)	52.5	52.5	7.5	5.0	0.0
中 3 の親 (n=40)	65.0	65.0	10.0	10.0	0.0

Q8. 食品添加物について、あなたの気持ちに近いのはどれですか？



食品添加物を使ってもよいかどうかについて質問した結果を、ビデオ視聴前の意識調査と比較してみると、「できるだけ使わないでほしい」が全体で 67.0%→38.8%と減少し、「必要であれば使ってもよい」が 8.5%→56.6%と大幅に増加し、啓発効果が顕著となった。

また、「いらなくと思う」は 12.8%→0.4%、「特に気にしない」は 11.8%→4.2%と変化した。

→P23【意識調査 Q4参照】

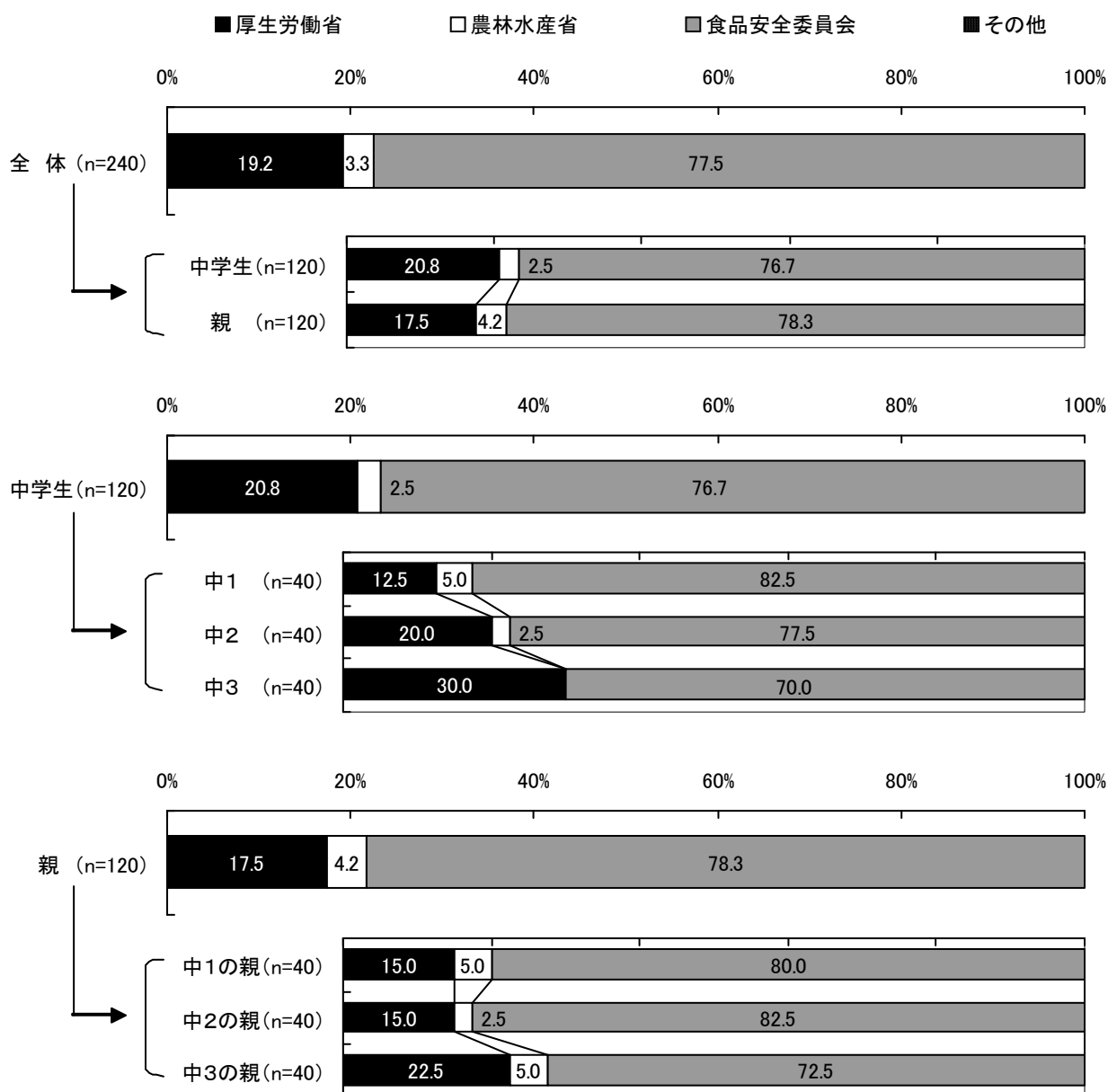
【食品添加物について、あなたの気持ちに近いのはどれですか？】

	必要であれば 使ってもよい	できるだけ使わ ないでほしい	いらなと思う	特に気にしない
全 体 (n=240)	56.6	38.8	0.4	4.2
中学生 (n=120)	60.1	35.8	0.8	3.3
親 (n=120)	53.3	41.7	0.0	5.0

	必要であれば 使ってもよい	できるだけ使わ ないでほしい	いらなと思う	特に気にしない
中学生 (n=120)	60.1	35.8	0.8	3.3
中 1 (n=40)	65.0	32.5	0.0	2.5
中 2 (n=40)	55.0	42.5	0.0	2.5
中 3 (n=40)	60.0	32.5	2.5	5.0

	必要であれば 使ってもよい	できるだけ使わ ないでほしい	いらなと思う	特に気にしない
親 (n=120)	53.3	41.7	0.0	5.0
中 1 の親 (n=40)	57.5	35.0	0.0	7.5
中 2 の親 (n=40)	52.5	42.5	0.0	5.0
中 3 の親 (n=40)	50.0	47.5	0.0	2.5

Q9. 食品添加物の安全性について確認している公的機関は次のうちどこだと思いますか？



食品添加物の安全性を評価している公的機関が「食品安全委員会」であると正しく認識できた回答比率をビデオ視聴前の調査との比較してみると、全体で 43.2%→77.5%と、大きく増加した。また、中学生では 47.0%→76.7%、親では 39.3%→78.3%と変化している。

なお、「厚生労働省」は全体で 19.2%、「農林水産省」は全体で 3.3%が回答している。

→P37【意識調査 Q18 参照】

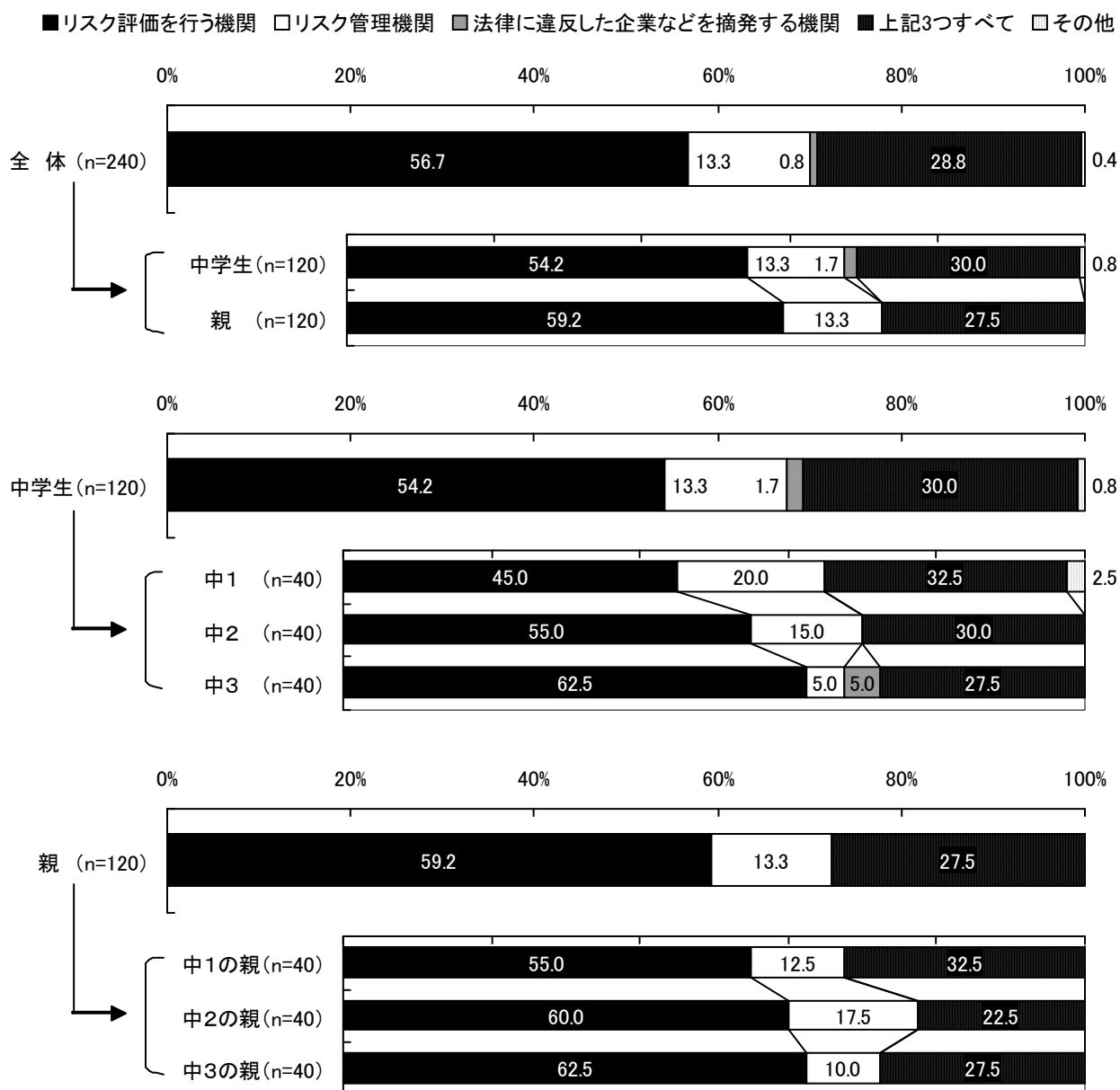
【食品添加物の安全性について確認している公的機関は次のうちどこだと思いますか？】

	厚生労働省	農林水産省	食品安全委員会	その他
全 体 (n=240)	19.2	3.3	77.5	0.0
中学生 (n=120)	20.8	2.5	76.7	0.0
親 (n=120)	17.5	4.2	78.3	0.0

	厚生労働省	農林水産省	食品安全委員会	その他
中学生 (n=120)	20.8	2.5	76.7	0.0
中 1 (n=40)	12.5	5.0	82.5	0.0
中 2 (n=40)	20.0	2.5	77.5	0.0
中 3 (n=40)	30.0	0.0	70.0	0.0

	厚生労働省	農林水産省	食品安全委員会	その他
親 (n=120)	17.5	4.2	78.3	0.0
中 1 の親 (n=40)	15.0	5.0	80.0	0.0
中 2 の親 (n=40)	15.0	2.5	82.5	0.0
中 3 の親 (n=40)	22.5	5.0	72.5	0.0

Q10. 食品安全委員会の業務内容は、次のうちどれですか？



食品安全委員会の業務内容が、「リスク評価を行う機関」と正しく認識しているのは、全体で 56.7%、中学生で 54.2%、親で 59.2%であった。今後、食品安全委員会の業務内容を認知してもらうための、広報・啓蒙活動が必要といえる。

注) リスク評価を行う機関:

食品を摂取することによる健康への悪影響について、科学的知見に基づき客観的かつ中立公正に評価(リスク評価)を行う機関

リスク管理機関:

リスク評価の結果に基づき、食品の安全性確保のための施策を策定し実施する(リスク管理)機関

法律に違反した企業などを摘発する機関:

食品の安全性に関する法律に違反した企業などを摘発する機関

【食品安全委員会の業務内容は、次のうちどれですか？】

	リスク評価 を行う機関	リスク管理機関	法律に違反した 企業などを摘発 する機関	上記3つすべて	その他
全 体 (n=240)	56.7	13.3	0.8	28.8	0.4
中学生 (n=120)	54.2	13.3	1.7	30.0	0.8
親 (n=120)	59.2	13.3	0.0	27.5	0.0

	リスク評価 を行う機関	リスク管理機関	法律に違反した 企業などを摘発 する機関	上記3つすべて	その他
中学生 (n=120)	54.2	13.3	1.7	30.0	0.8
中 1 (n=40)	45.0	20.0	0.0	32.5	2.5
中 2 (n=40)	55.0	15.0	0.0	30.0	0.0
中 3 (n=40)	62.5	5.0	5.0	27.5	0.0

	リスク評価 を行う機関	リスク管理機関	法律に違反した 企業などを摘発 する機関	上記3つすべて	その他
親 (n=120)	59.2	13.3	0.0	27.5	0.0
中 1 の親 (n=40)	55.0	12.5	0.0	32.5	0.0
中 2 の親 (n=40)	60.0	17.5	0.0	22.5	0.0
中 3 の親 (n=40)	62.5	10.0	0.0	27.5	0.0